



2015
福岡大学要覧
FUKUOKA UNIVERSITY
GUIDEBOOK

人をつくり、時代を拓く。

福岡大学



大学概要	2
学長挨拶・建学の精神	2
組織図	4
役員一覧	6
沿革	7
事業計画	10
教育	12
学年暦	12
福岡大学の三つのポリシー	13
学部・学科	14
大学院	17
国際交流	20
海外協定校との国際交流プログラム	22
学部独自の交換留学・海外研修	23
エクステンションセンター	24
課外教育活動	26
附属学校・留学生別科	28
研究	30
研究推進部	30
研究部門	30
産学知財部門	32
研究機関研究所	33
医療	36
福岡大学病院	36
福岡大学筑紫病院	38
地域貢献	40
ボランティア活動	40
公開講座	41
福岡市との連携事業	42
教育支援・学生支援	44
各センター	44
教育開発支援機構	47
福大生ステップアッププログラム	48
奨学制度・学生保険	50
教育研究施設	52
図書館	52
総合情報処理センター	54
施設・建物	55
DATA [データ編]	57
教職員数	授業料等納入金
教員の年齢構成	図書館蔵書数・利用状況
学生数	学外からの研究費受入額
入学試験状況	校地・校舎の面積
出身校所在県別入学状況	平成27年度事業活動収支予算
卒業生総数	平成27年度資金収支予算
博士の学位授与数	平成25年度消費収支計算書
就職状況	平成25年度資金収支計算書
大学院修了後の進路	貸借対照表
海外協定校一覧	情報発信
海外派遣学生数	キャンパスマップ
外国人留学生数	アクセスマップ
外国籍教員数	
附属学校	
留学生別科	

人をつくり、時代を拓く。

総合大学としての本学は、教育・研究・医療の3つの高度機能を果たすことを至上命題とし、近年では、産学官・高大・大学間・コミュニティ連携など連携機能の充実にも力を入れています。主軸としての教育については、「建学の精神」と「教育研究の理念」に沿う人材を育成するため、「アジアを見据えた地域の総合教育拠点」の形成に邁進しているところです。

本学は、地域に信頼され頼りがいのある拠点大学として、また、福岡、九州、さらにはアジアへと広がる輪の拠点として、存在価値を高めていきます。



学長
衛藤 卓也



詳細は福岡大学「教育研究の理念」へ

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/aboutus/philosophy/ideal.html>

思想 堅実
 穩健 中正
 質実 剛健
 積極 進取

建学の精神

筑紫野は
 玄海の汐ざいはるか
 背振ねを指さすところ
 うつくしきわれらが母校
 われらが理想
 道こそはけわしかれ
 人らしき人にあるべく
 輝ける明日を望みて
 若き日の今日を学ばん

福岡大学校歌

作詞/狩野 満
 作曲/飯田 信夫
 編曲/平井 哲三郎

福岡大学ビジョン2014-2023



福岡大学は、九州に位置する総合大学として地域との絆を大切にしつつ、時代や社会の要請に応じて教育・研究・医療の拠点として広く社会に貢献します。特に、次の4つを重点項目とします。

- 1 時代の要請や社会のニーズに対応した教育・研究・医療の提供
- 2 先進的で高度な研究活動の遂行
- 3 アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成
- 4 福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進

役員一覧

平成27年5月1日現在

大学役職員

学 長	衛藤 卓也
副 学 長	今泉 博国
◇	畠田 公明
◇	馬本 誠也
◇	内藤 正俊
事務局 長	岡 忠義
人文学部 長	星乃 治彦
法学部 長	砂田 太士
経済学部 長	西原 宏
商学部 長	中川 誠士
理学部 長	山口 敏男
工学部 長	荒牧 重登
医学部 長	朔 啓二郎
薬学部 長	添田 泰司
スポーツ科学部 長	田中 守
教務部 長	黒瀬 秀樹
学生部 長	小野寺 一浩
図書館 長	則松 彰文
研究推進部 長	西嶋 喜代人
第二部 主事	山本 和人
福岡大学病院 長	田村 和夫
福岡大学筑紫病院 長	向野 利寛

学校法人役員

理 事 長	田中 浩二
副 理 事 長	明石 博義
◇	河部 浩幸
専務 理 事	衛藤 卓也
常務 理 事	今泉 博国
◇	畠田 公明
◇	馬本 誠也
◇	内藤 正俊
◇	岡 忠義
理 事	星乃 治彦
◇	砂田 太士
◇	西原 宏
◇	中川 誠士
◇	山口 敏男
◇	荒牧 重登
◇	朔 啓二郎
◇	添田 泰司
◇	田中 守
◇	相良 浩文
◇	瓜生 道明
◇	大野 憲俊
◇	川畑 懿子
◇	田中 優次
◇	川崎 隆生
◇	森本 廣
監 事	土屋 雅彦
◇	堀 芳郎

沿革



左) 昭和9年5月21日
第1回入学式

右) 昭和10年
本館玄関

福岡大学のあゆみ

昭和 9(1934)年	4月	福岡高等商業学校を創立
昭和19(1944)年	4月	福岡高等商業学校と九州専門学校(勸弘文学舎設置)を統合し、九州経済専門学校を設立
昭和21(1946)年	4月	福岡経済専門学校と改称
昭和24(1949)年	4月	福岡経済専門学校と福岡外事専門学校(勸福岡外国語学園設置)を統合し、福岡商科大学(商学部商学科)を設立
昭和25(1950)年	4月	福岡商科大学短期大学部第一部(商経科・貿易科・英文科)・第二部(商経科・貿易科・英文科)を併設
昭和28(1953)年	4月	商学部第二部(商学科)を増設
昭和31(1956)年	4月	福岡大学と改称 法経学部(法学科・経済学科)を増設
昭和33(1958)年	3月	福岡大学短期大学部を廃止
昭和34(1959)年	4月	法経学部を分離し、法学部(法律学科)および経済学部(経済学科)を増設
昭和35(1960)年	4月	薬学部(薬学科)を増設 法学専攻科、経済学専攻科および商学専攻科を設置
昭和37(1962)年	4月	工学部(機械工学科・電気工学科)を増設
昭和39(1964)年	4月	工学部に土木工学科および建築学科を増設
昭和40(1965)年	3月	法学専攻科および経済学専攻科を廃止
	4月	大学院(法学研究科民刑事法専攻および経済学研究科経済学専攻の各修士課程)を設置 薬学専攻科を増設
昭和41(1966)年	4月	薬学部に製薬化学科、工学部に電子工学科を増設
昭和42(1967)年	4月	商学部に貿易学科を増設 法学研究科に公法専攻修士課程および民刑事法専攻博士課程、経済学研究科に経済学専攻博士課程を増設
昭和43(1968)年	3月	商学専攻科および薬学専攻科を廃止
	4月	経済学部に産業経済学科を増設 商学研究科商学専攻および薬学研究科薬学専攻の各修士課程を増設
昭和44(1969)年	4月	人文学部(文化学科・英語学科・仏語学科)および体育学部(体育学科)を増設 工学部に化学工学科を増設
昭和45(1970)年	4月	理学部(応用数学科・応用物理学科・化学科)を増設 人文学部に独語学科、法学部に経営法学科を増設 商学研究科に商学専攻博士課程、工学研究科機械工学専攻および電気工学専攻の各修士課程を増設



左) 昭和12年
第1回卒業式
中) 昭和26年頃
福岡城の門が正門
右) 昭和35年
福岡大学全景



左) 昭和44年
創立35周年記念式典
中) 昭和51年
医学部講義風景
右) 昭和56年
全日本大学駅伝で
2度目の日本一

昭和46(1971)年	4月	法学研究科に公法専攻博士課程を増設
昭和47(1972)年	4月	医学部(医学科)を増設
昭和48(1973)年	8月	福岡大学病院を開設
昭和49(1974)年	4月	工学研究科に化学工学専攻修士課程を増設
昭和50(1975)年	4月	薬学研究科に薬学専攻博士課程を増設
昭和51(1976)年	4月	理学研究科応用物理学専攻および化学専攻の各博士課程を増設
昭和53(1978)年	4月	医学研究科人間生物系専攻、感染生物系専攻、病態構造系専攻、病態機能系専攻、病態生化学系専攻および社会医学系専攻の各博士課程を増設
昭和57(1982)年	4月	人文科学研究科英語学英米文学専攻および仏語学仏文学専攻の各修士課程、理学研究科に応用数学専攻修士課程を増設
昭和60(1985)年	6月	福岡大学筑紫病院を開設
昭和62(1987)年	4月	人文学部に歴史学科および日本語日本文学科を増設
平成 2(1990)年	4月	理学研究科に応用数学専攻博士課程、工学研究科に電子工学専攻および建設工学専攻の各修士課程、体育学研究科体育学専攻修士課程を増設
平成 4(1992)年	4月	人文科学研究科に史学専攻、日本語日本文学専攻および独語学独文学専攻の各修士課程を増設
平成 5(1993)年	4月	工学研究科にエネルギー・環境システム工学専攻および情報・制御システム工学専攻の各博士課程を増設
平成 6(1994)年	4月	人文科学研究科に史学専攻および日本語日本文学専攻の各博士課程を増設
平成 7(1995)年	4月	人文学部独語学科および仏語学科をドイツ語学科およびフランス語学科に改称
平成 9(1997)年	4月	人文科学研究科に英語学英米文学専攻、独語学独文学専攻および仏語学仏文学専攻の各博士課程、理学研究科に地球圏科学専攻修士課程を増設
平成10(1998)年	4月	理学部に地球圏科学科を増設 工学部電子工学科を改組して電子情報工学科、体育学部を改組してスポーツ科学部(スポーツ科学科・健康運動科学科)を増設
平成11(1999)年	4月	人文学部に東アジア地域言語学科、商学部経営学科を増設 人文科学研究科に社会・文化論専攻修士課程、理学研究科に地球圏科学専攻博士課程を増設
平成12(2000)年	4月	人文科学研究科に教育・臨床心理専攻修士課程を増設
平成14(2002)年	4月	人文科学研究科に教育・臨床心理専攻博士課程、工学研究科に資源循環・環境工学専攻修士課程を増設
平成15(2003)年	4月	工学部化学工学科および土木工学科を化学システム工学科および社会デザイン工学科に改称 体育学研究科体育学専攻をスポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻に改称

平成16(2004)年	3月 4月	工学部電子工学科を廃止 スポーツ健康科学研究科にスポーツ健康科学専攻博士課程を増設 法書実務研究科法務専攻専門職学位課程(法科大学院)を増設 薬学部薬学科および製薬化学科を医療薬学科および生命薬学科に改称 工学研究科電子工学専攻および化学工学専攻を電子情報工学専攻および化学システム工学専攻に改称
平成17(2005)年	3月	体育学部(体育学科)を廃止
平成18(2006)年	4月	薬学部医療薬学科および生命薬学科を改組して薬学科(6年制)を増設
平成19(2007)年	4月	人文学部に教育・臨床心理学科、医学部に看護学科を増設
平成20(2008)年	4月	理学部応用物理学科を物理科学科に改称 医学研究科人間生物系専攻、感染生物系専攻および病態生化学系専攻を人体生物系専攻、生体制御系専攻および先端医療科学系専攻に改称
平成22(2010)年	4月 9月	薬学研究科に健康薬科学専攻修士課程を増設 薬学部生命薬学科を廃止
平成23(2011)年	3月 4月	薬学部医療薬学科を廃止 薬学研究科薬学専攻博士課程前期を廃止 医学研究科に看護学専攻修士課程を増設
平成24(2012)年	4月	薬学研究科に薬学専攻博士課程(4年制)を増設 留学生別科を設置
平成26(2014)年	3月	薬学研究科薬学専攻博士課程後期を廃止

附属学校のあゆみ

昭和23(1948)年	4月	福岡外事専門学校附属大濠中学校を設立
昭和24(1949)年	4月	福岡商科大学附属大濠中学校と改称
昭和26(1951)年	4月	福岡商科大学附属大濠高等学校を設立
昭和31(1956)年	4月	福岡大学附属大濠高等学校、同附属中学校と改称
昭和33(1958)年	3月	福岡大学附属大濠中学校を廃止
昭和50(1975)年	4月	福岡大学附属看護学校を設立
昭和51(1976)年	10月	福岡大学附属看護専門学校と改称
平成 8(1996)年	4月	福岡大学附属大濠中学校を設立
平成21(2009)年	3月	福岡大学附属看護専門学校を廃止
平成22(2010)年	4月	福岡大学附属若葉高等学校を設立 (学校法人九州女子高等学校と合併し九州女子高等学校を改称)

平成27年度

学校法人福岡大学事業計画（概要）

「福岡大学ビジョン2014－2023」重点項目の達成に向け、平成27(2015)年度事業計画の基本方針を次のとおり定める。

1 時代の要請や社会のニーズに対応した教育・研究・医療の提供

予測困難な時代の中で、時代の要請や社会のニーズを認識し、それらに応える知識・能力・人間性を備えた人材の育成、研究の活性化、高度医療の提供を行う。

第一に、学生の能力をどう伸ばすのか、どのような知識、技術、技能を修得させ、どのような能力を養成するかという視点に基づき、個々の授業科目の関連性など教育科目の構造を分かりやすく明示する教育課程の体系化を進め、初年次教育、キャリア教育、学生参加型・課題解決型授業などを効果的に導入する。さらに、附属高等学校との連携により、本学が進める人材の育成に必要な基礎学力や人間力を備えた生徒の育成、受け入れに取り組む。

第二に、研究の遂行に当たっては、研究者の支援にも力を入れ、特に女性研究者が活躍できる環境の整備を進める。社会的に意義のある研究の遂行という点では、第三者の視点で評価がなされる科研費等、競争的な外部資金の導入を進める。

第三に、人の健康を支える医療の充実、特定機能病院、地域医療支援病院という二つの病院を擁する本学の社会的使命である。「あたたかい医療」という基本理念に基づき、社会のニーズに応える患者中心の医療の提供、高度先進医療の指導的病院、社会に必要とされる優れた医療人の育成、健康のための情報発信基地、地域に開かれた中核的医療センターを目指し、活動を行う。

重点的に取り組む事項 学士課程教育の充実、キャリア教育の実施、大学院教育の充実、FD(教育改善活動)・SD(職員の職能開発)の推進、学生の受け入れ、研究推進・支援体制の強化、医療人としての資質向上に関する取り組み、地域がん診療病院の新規申請・承認

2 先進的で高度な研究活動の遂行

多種多様な研究領域において、本学の強みを生かした先進的で高度な基礎研究、応用研究を遂行し、その成果を広く世界に発信していく。また、総合大学としての人的・物的資源を活用し、学際的あるいは産学官連携といった特色ある研究を展開する。

重点的に取り組む事項 基盤研究所による研究の実施、産学官連携研究所による研究の実施

3 アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成

経済のグローバル化が急速に進む中でグローバル人材の育成も大学の重要な任務となっている。アジアの玄関口としての福岡の特性を重視し、アジア諸国をはじめとした各国からの留学生受け入れ、本学学生の海外派遣により、国際社会や地域で中核を担う人材の育成を進める。併せて、「グローバル・アクティブ・プログラム(GAP)」の定着・拡充を図り、国際的な通用性、信頼性のある質の保証がなされた教育プログラムを構築する。

重点的に取り組む事項 キャリア教育の実施、国際化の推進

4 福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進

これまで本学が蓄積してきた教育・研究・医療の成果に基づき、福岡市をはじめ、地元自治体や企業との連携協力体制の一層の強化を図るとともに、地域の課題解決につながる研究プロジェクトや街づくりの取り組みを推進し、地域の活性化と発展に貢献する。また、地域の課題発見・解決型の講義や現地学習の充実化を進めることで、主体的に課題解決に取り組む、地域や社会の発展に貢献できる人材の育成に努める。

重点的に取り組む事項 地域連携推進体制の整備、生涯学習事業の積極的展開

ビジョンの達成、本学の安定的な発展のためにさまざまな事業に取り組むが、そのためには強固な組織基盤が必要である。学長のリーダーシップに基づくガバナンスの確立や財政基盤の強化、本学の特色をより明確にするためのメリハリのある資金配分等、大学の組織基盤を強化する。また、教学に関する事項、経営および管理運営に関する事項について、必要な情報を収集・分析し、計画の策定を支援する体制および機能を強化する。

重点的に取り組む事項 教学IRの体制整備、ガバナンス機能の強化、財政基盤の強化と予算編成内容の見直し

学年暦 《平成27年度》



福岡大学の三つのポリシー

福岡大学は、「建学の精神」に基づいた全人教育を目標として、「教育研究の理念」に掲げる三つの共存をはかることによって、真理と自由を追求し、自発的で創造性豊かな人間を育成し、社会の発展に寄与することを使命としています。地域に密着し、地域と融合した総合大学として、コミュニケーションを大切にし、社会から信頼される人材を育成します。

1

アドミッションポリシー

本学の「建学の精神」を理解した、次のような人々を広く国内外から受け入れます。

1. 考え方がしっかりしており独断や偏見にとられない生き方を求める人
2. 温和で包容力がありバランス感覚に優れた能力を身につけたい人
3. 誠実で責任感が強く何事にも屈しない人生をめざす人
4. 新しいこと、困難なことに自ら進んで取り組んで行こうとする人

2

カリキュラムポリシー

本学の「教育研究の理念」に基づき、すべての学生に提供する「共通教育科目」と、各学部学科に設置する「専門教育科目」の二つを大きな柱とし、それぞれの学部学科の教育目標にあわせたカリキュラムを編成します。

また、正課外教育においても、充実した各種教育プログラムを展開し、全教職員で本学学生の人間の成長を支援し、全人教育を実現します。

1. 全学に提供する共通教育科目をとおして、専門性にとられない幅広い視野と豊かな人間性を持つ人材を育成
2. 各学部学科が設置する専門教育科目をとおして、専門的な知識や技能を高め、社会の進歩や変革に応え得る深い学識を有する人材を育成
3. 様々な教育プログラムをとおして、国際性と地域性を兼ね備えた21世紀に通用する人材を育成

3

ディプロマポリシー

本学の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. 修得した知識・技能・態度により、自らが発見した新たな課題を解決する力
2. 職業生活、社会生活に必要な知的活動を支えるコミュニケーション能力や論理的思考力
3. 自律しながらも他者と協調して行動でき、社会の一員として社会の発展に寄与できる力

学部・学科

9学部31学科
個性的で多彩な教育プログラムを提供しています。

人文学部

<http://www.hum.fukuoka-u.ac.jp/>

設 立	昭和44年4月
学 科	文化学科、歴史学科、 日本語日文学科、 教育・臨床心理学科、 英語学科、ドイツ語学科、 フランス語学科、 東アジア地域言語学科
取得できる学位	学士(文学)

個性あふれる8つの学科で、哲学・歴史学・社会学・心理学・教育学・臨床心理学、さらには、日本および諸外国の言語や文学・文化など、多様な学問領域を学びます。130人余の多彩な教授陣による徹底した少人数参加型教育を通じて、グローバル化した現代社会で必要とされる幅広い教養の形成と充実した専門教育に取り組んでいます。

法学部

<http://www.law.fukuoka-u.ac.jp/>

設 立	昭和34年4月
学 科	法律学科、経営法学科
取得できる学位	学士(法学)

現代社会の複雑な諸問題の解決のために、真の法的素養のある人が求められています。バランス感覚豊かな法的素養と資質を身に付けることを第一に、法科大学院への進学も含め学生の将来の目標に合わせたコース別カリキュラムを設けています。知的好奇心を喚起し、学生一人一人が意欲的に勉学を進められるように、1年次から少人数教育の充実にも力を入れています。

経済学部

<http://www.econ.fukuoka-u.ac.jp/>

設 立	昭和34年4月
学 科	経済学科、産業経済学科
取得できる学位	学士(経済学)

経済学とは、人々の経済活動について実態を調べ、因果関係を明らかにし、法則性を見つけようとする学問です。経済学部の提供するオーソドックスな経済学の科目からは、複雑な経済の動きを理解しイメージする力や論理的思考力を養うことができます。また、実学志向の科目からは、現場において課題を見つけ解決策を提案する問題解決力や行動力を養うことができます。これらの教育を通して優れた経済人を育成することが経済学部の目的です。

商学部

<http://www.comm.fukuoka-u.ac.jp/>

設 立	昭和24年4月
学 科	商学科、経営学科、 貿易学科
取得できる学位	学士(商学)

昭和9年設立の福岡高等商業学校をルーツとする商学部は、本学で最も長い歴史と伝統を有する学部です。グローバル社会と地域社会で活躍できる人材の育成を目的として、3つの学科に、流通、金融、交通、保険、経営、会計、国際ビジネス等に関する多彩な専門科目を配置するとともに、教員と学生との人間的交流を通じて一つの科目をより深く学ぶゼミを学部教育の中心として重視しています。会計専門職プログラムを受講して公認会計士・税理士等を目指すこともできます。

商学部第二部

http://www.comm.fukuoka-u.ac.jp/commerce_evening/

設 立	昭和28年4月
学 科	商学科
取得できる学位	学士(商学)

創設以来、多くの社会人に勉学の間を提供してきました。流通・金融、経営、会計、国際ビジネスの4コースのいずれかを選択することにより、興味や目的に合った分野を体系的かつ効率的に学習することができます。コースを修了した上で指定された資格・検定試験に合格すれば、単位が与えられる制度もあります。情報処理関連の科目群、4コース別ゼミナール、さらには韓国、タイへの研修を目的とする2つの海外研修ゼミナールも設置されています。また会計専門職プログラムにチャレンジすることもできます。昼間部の講義も受講可能で、学費は文系昼間部の半額以下です。

理学部

<http://www.sci.fukuoka-u.ac.jp/>

設 立	昭和45年4月
学 科	応用数学科、物理科学科、 化学科、地球圏科学科
取得できる学位	学士(理学)

理学とは自然のしくみを探求する学問であり、理学部はその基礎を学び発展させる場です。理学部では、自然界におけるさまざまな現象やそのしくみを徹底的に追究することで得られることとその過程で学んだことが、新規なもの創造の原動力になると考えています。また、解き明かされた自然のしくみを基に新たな科学的な技術を創造し支援するのも理学の重要な役割です。学生たちは無限に広がる可能性を秘めた理学の世界に日々挑戦しています。

工学部

<http://www.tec.fukuoka-u.ac.jp/>

設 立	昭和37年4月
学 科	機械工学科、電気工学科、 電子情報工学科、 化学システム工学科、 社会デザイン工学科、 建築学科
取得できる学位	学士(工学)

工学部の6学科では、環境世紀に 대응する先端的な研究開発から身の回りの安全と安心を守る基盤技術まで、国内外で活躍できる質の高い専門技術者を養成しています。大型で実規模の実験実習設備、専用のマルチメディア教室、設計室など充実した教育研究環境で、一人一人に丁寧な指導を行っています。



大学院

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu820/home1/>

医学部

<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/>

設立	昭和47年4月
学科	医学科、看護学科
取得できる学位	〔医学科〕学士(医学) 〔看護学科〕学士(看護学)

医学部は、医学科、看護学科の2学科からなっており、高度の医学知識と専門技術を修得するとともに、常に生命の尊厳と医の倫理を念頭においた教育を実践しています。医学部では、ホスピタリティを持った人間性豊かな医師・看護師を育て、地域社会の医療に貢献してきた実績が、教育にも反映されています。平成23年1月には福岡大学病院新診療棟を開院し、病院本館もリニューアルしています。また、福岡大学筑紫病院が建て替わり平成25年5月に開院しました。

医学部はさらなる発展を目指して、医学の進歩に対応する最新の教育・研究施設を活用し、福岡大学病院および福岡大学筑紫病院と連携しながら、自習性を持った優秀な医師および看護師を育成していきます。

薬学部

<http://www.pha.fukuoka-u.ac.jp/>

設立	昭和35年4月
学科	薬学科
取得できる学位	学士(薬学)

薬学の教育目標は「豊かな人間性を持ち、高度医療薬学の知識・技能・態度を備える薬剤師の養成」にあります。その実現に向けて日々発展する薬学を究め、ヒューマンズムと倫理観、さらに高度な知識を持った薬剤師を育成します。また、総合大学の中にある薬学部の特長を生かして、有機化学や生物化学を基盤に、最先端の医療・臨床薬学、創薬科学および総合薬学に重点をおいた教育を実践しています。

スポーツ科学部

<http://www.spo.fukuoka-u.ac.jp/>

設立	昭和44年4月
学科	スポーツ科学科、健康運動科学科
取得できる学位	学士(スポーツ科学)

昭和44年創設の歴史ある体育学部を平成10年4月、スポーツ科学部に名称変更、改組転換してスポーツ科学科と健康運動科学科を設置。人間とスポーツ・運動との関わりを高度なスポーツ・健康の医科学的見地から学びます。さらに、スポーツの真髄と奥義を究め、豊かなスポーツライフを築くリーダーを育成していきます。

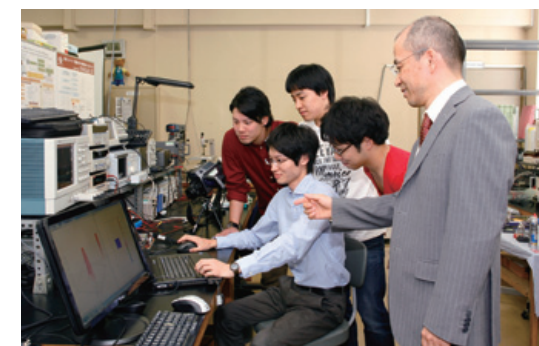
来るべき学部創立50周年(平成31年)に向けて、教員養成強化、スポーツ強化、社会・地域貢献、高大連携強化を柱とした「FUSS Active Plan」を推進しています。

注：修業年限は4年。ただし、医学部医学科および薬学部は6年。

10研究科34専攻 社会の多彩な領域で、より高度で実践的な 専門能力を発揮します。

福岡大学大学院では昭和40年の開設以来、社会文化の発展に寄与すべく研究・教育の充実を図っています。

本学大学院の特色は、10研究科の境界を超えた学際的かつ総合的な研究活動を活発に行っていることです。また、時代の変革に即応したカリキュラムの開発や新たな研究指導法の導入等により、より高度で専門的な研究者、職業人の育成が行われており、それらの成果は実践的な教育研究に反映され高い評価を得ています。



人文科学研究科

史学専攻	〔博士課程 前期・後期〕
日本語日本文学専攻	〔博士課程 前期・後期〕
英語学英米文学専攻	〔博士課程 前期・後期〕
独語学独文学専攻	〔博士課程 前期・後期〕
仏語学仏文学専攻	〔博士課程 前期・後期〕
社会・文化論専攻	〔修士課程〕
教育・臨床心理専攻	〔博士課程 前期・後期〕
取得できる学位	修士(文学)、修士(学術)、 博士(文学) 教育・臨床心理専攻は 修士(教育学)、修士(臨床心理学)、 博士(教育学)、博士(臨床心理学)

人文科学研究科は、全7専攻において人間性の探究を究極の目的としています。そのために、高度の専門研究と職業能力を兼ね備え、かつ広い展望と自由な批判精神を持つ創造的人材を養成しています。

教育・臨床心理専攻は夜間開講大学院として広く社会人にも門戸を開いています。

法学研究科

公法専攻	[博士課程 前期・後期]
民刑事法専攻	[博士課程 前期・後期]
取得できる学位	修士(法学)、博士(法学)

法学研究科は、法学や政治学に関する高度な専門知識と能力により社会に貢献できる人材の養成を目的としており、公法専攻と民刑事法専攻とに分かれています。それぞれの専攻に応じたカリキュラムを提供しています。少人数による対話形式で講義と演習が行われており、受講者のニーズに応じた教育・研究指導を行っています。博士課程前期の社会人に対しては、夜間でも講義を受講できる対応を取っています。

経済学研究科

経済学専攻	[博士課程 前期・後期]
取得できる学位	修士(経済学)、修士(学術)、博士(経済学)

経済学研究科は、経済学の先進的な研究を進展させるとともに、その高度な専門知識を社会の中で効果的に適用できる人材の育成を理念とし、学術の発展に寄与する研究者、高度な専門職業人、高い見識を備えた国際的リーダーの養成を目的としています。

商学研究科

商学専攻	[博士課程 前期・後期]
取得できる学位	修士(商学)、修士(経営学)、修士(学術)、博士(商学)

商学研究科は、商学と経営学に関する専門知識と体系的思考力を備え、現代社会をリードし新社会を創造する高い学識と卓越した能力を持つ人材の育成を目的に、積極的で多様な動機を持つ学生を受け入れ、ニーズに応じたカリキュラムを提供しています。

理学研究科

応用数学専攻	[博士課程 前期・後期]
応用物理学専攻	[博士課程 前期・後期]
化学専攻	[博士課程 前期・後期]
地球圏科学専攻	[博士課程 前期・後期]
取得できる学位	修士(理学)、博士(理学)

理学研究科は、自然科学に関する研究を通して自然と調和した社会の発展と福祉に貢献するとともに、総合的で深い学識と高度な研究能力を持つ人材およびこれらの学術的素養を生かして社会で活躍できる専門的職業人の育成を目的としています。

工学研究科

機械工学専攻	[博士課程 前期]
電気工学専攻	[博士課程 前期]
電子情報工学専攻	[博士課程 前期]
化学システム工学専攻	[博士課程 前期]
建設工学専攻	[博士課程 前期]
エネルギー・環境システム工学専攻	[博士課程 後期]
情報・制御システム工学専攻	[博士課程 後期]
資源循環・環境工学専攻	[修士課程]
取得できる学位	修士(工学)、修士(学術)、博士(工学)、博士(学術)

工学研究科の博士課程前期および修士課程では、先端技術開発の場で活躍できる人材の育成、博士課程後期では、技術的な諸問題に対し新たな解決法や学術的知見を提供して、社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

医学研究科

人体生物系専攻	[博士課程]
生体制御系専攻	[博士課程]
病態構造系専攻	[博士課程]
病態機能系専攻	[博士課程]
社会医学系専攻	[博士課程]
先端医療科学系専攻	[博士課程]
看護学専攻	[修士課程]
取得できる学位	修士(看護学)、博士(医学)

医学研究科博士課程は、研究能力を培うとともに特定の専門分野において深い知識を有し優れた研究を行い得る研究者の養成、臨床研究者として優れた研究能力を備えた臨床医の養成を目的としています。

看護学専攻修士課程は、看護実践上の問題に主体的・科学的に取り組み、科学的根拠に基づく専門性の高い実践力を持ち、看護を創造的、開発的に探求し続ける高度な実務家を育成することを目的としています。

薬学研究科

健康薬科学専攻	[修士課程]
薬学専攻	[博士課程]
取得できる学位	修士(健康薬科学)、博士(薬学)

薬学研究科は、「薬学に関する学術の理論および応用を教授・研究し、その深奥を究めて、広く医療の進展に寄与する」という理念の下、高度な専門性と研究能力を備えた薬剤師や将来を担う研究者の育成を目的としています。

スポーツ健康科学研究科

スポーツ健康科学専攻	[博士課程 前期・後期]
取得できる学位	修士(スポーツ健康科学)、博士(スポーツ健康科学)

スポーツ健康科学研究科は、前期では高度な知識・技術をもとに科学的指導を実践・応用できる専門家、後期では専門的な領域で自立して研究活動を行える研究者の養成を目的としています。

法曹実務研究科(法科大学院)

<http://www.ilp.fukuoka-u.ac.jp/>

法務専攻	[専門職学位課程]
取得できる学位	法務博士(専門職)

法科大学院は、法曹(弁護士、裁判官、検察官)を養成することを目的とする専門職大学院です。法曹になるためには原則として法科大学院を修了し司法試験に合格することが必要です。本法科大学院では、これまでに47人の合格者を輩出しています。

注：標準修業年限は、修士課程および博士課程前期は2年。博士課程後期は3年。博士課程(医学および薬学研究科)は4年。専門職学位課程(法科大学院)は3年(既修者コースは2年)。
・人文科学研究科教育・臨床心理専攻(博士課程前期・後期)および薬学研究科健康薬科学専攻(修士課程)は専ら夜間において教育が行われます。

国際交流

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu809/home1/a080000.htm>

本学では、教育や学術交流を通して、世界の多様な価値観や文化を広い視野を持って理解し、真の国際化に貢献するため、国際社会で大いに活躍できる人材の育成を図っています。

福岡大学生の海外派遣

交換留学	海外の大学との協定に基づいて協定校から学生を受け入れると同時に、本学の学生を学籍上「在学」の扱いで協定校に1年間派遣する制度です。 派遣学生には本学から留学奨励金が助成され、留学先大学での授業料も免除されます。また、留学先大学で履修した授業科目は本学の授業科目として単位認定されます。
認定留学	本学学生が休学することなく、外国の大学または短期大学に事前に本学の許可を得て留学する制度です。本人の申請に基づいて留学希望の大学を当該学部教授会が審査し、本人の留学目的などが教育上有益であると判断した場合に認められます。 学籍上の取扱いや単位認定については交換留学の場合と同様ですが、学費は本学と留学先大学の両方に納入しなければなりません。留学手続きは個人で行わなければならないが、交換留学の対象になっていない大学、協定校のない国の大学への留学が可能になることが認定留学制度のメリットであるといえます。
海外研修	海外の大学との協定に基づいて学生を派遣する短期(約3~4週間)の研修制度です。語学研修やホームステイ、寮生活などを通して語学力と国際感覚を養います。選考試験が行われ、本学からは経費の一部が助成されます。
海外語学研修	英語能力、中国語能力の向上を主目的とした2~3週間の研修です。経費は全額自己負担となりますが、選考試験は行われません。

外国人留学生の受け入れ

本学では、学位の取得を目的として学部および大学院の正規課程に入学した留学生をはじめ、交換留学生、研究生、短期研修生など多様な形態による外国人留学生が在籍し、日本人学生と共に勉学に励んでいます。

学部留学生 大学院留学生	本学の学部や大学院の正規課程に入学し、学士、修士および博士の学位を取得することを目的とする留学生の受け入れを積極的に行っています。中国、韓国などからの留学生が本学学生と共に勉学に励んでいます。
交換留学生	海外の協定大学から、交換留学生を1年間または半期の期間で受け入れています。交換留学生は日本語能力に応じて、一般の授業科目を受講しています。また、課外活動にも積極的に参加し本学学生との交流を深めています。
研究生	学部や大学院において特定の研究に従事する研究生として多数の留学生が学んでいます。研究生の後大学院進学を目指す留学生もいます。
外国人研修生	海外の協定大学から研修生が来学し、約2週間本学で実施される日本語・日本文化を中心とした研修を受けると同時に、本学学生との交流を深めています。
留学生別科生	留学生別科では、日本の大学・大学院入学を目指す留学生を受け入れています。留学生別科生は日本語や日本事情等を学んでいます。



国際交流会館

グローバル人材育成推進事業

急速なグローバル化の進展に伴い、国際社会に対応し得る若い世代の育成が求められています。そのような社会からの負託に応えるべく、本学は平成25年4月より3つの柱からなる「福岡大学グローバル人材育成推進事業」を開始しました。

1 グローバル・アクティブ・プログラム (GAP)

グローバル(Global)に活躍するアクティブ(Active)な精神を持つ人材の育成を目的とする教育プログラム(Program)GAPが事業の一環として平成25年4月にスタートしました(下図参照)。

基礎科目群では、海外に目を向け、必要な準備を行った後に、「アジア現地研修」や「グローバル・イングリッシュ」により、実際に海外で現地研修や語学研修を行います。

さらに、国際教養科目群で海外の文化・歴史や経済・産業などの国際教養のほか、ディベートやレポート・プレゼンなど留学のために必要なスキルを学びます。

高年次に海外での2度目の修学機会を想定し、留学・海外研修科目群に「留学」「海外インターンシップ」を設置しました。

また、GAPではコミュニケーション能力を語学力と同等に重要であると考え、GAP科目とは異なり単位を伴わないさまざまなGAP講座を設けています。

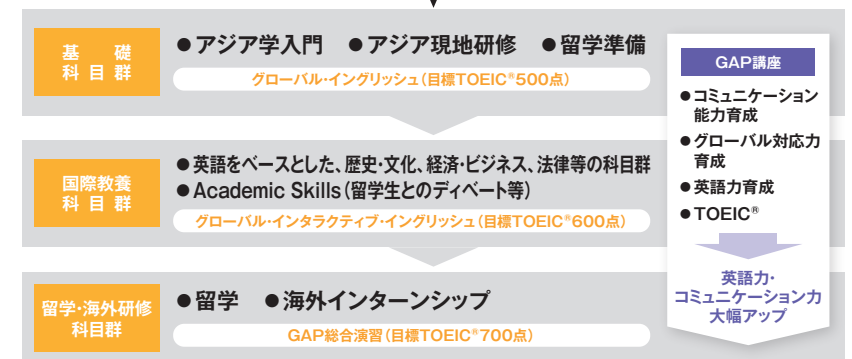
2 海外派遣・受入学生数の大幅な拡大

留学制度とGAPにより、海外に派遣する学生数の大幅な増加を図ります。また、宿舎等の受入体制の充実、奨学金制度の充実などにより外国人留学生数を大幅に拡大させます。

3 教育課程のグローバル化

英語による授業科目の設置、カリキュラムマップやナンバリングなどカリキュラムの体系化と整備を行います。

Global Active Program (GAP)



福岡大学グローバル人材育成推進事業は、海外で活躍できる人材とともに、グローバル化した日本、九州を支える人材の育成を推進します。

海外協定校との国際交流プログラム

本学では、異なった価値観や文化を理解する広い視野を持ち国際社会で大いに活躍できる人材の育成を目指し、全学的に海外協定校との国際交流を推進しています。

交換留学

派遣先大学等	派遣人数	派遣期間	福岡大学援助金	備考	
高麗大 高麗大 高麗大	2人以内	2月から 約1年間	10万円	派遣先大学の 授業料免除 語学力、学業 成績および面 接により選考 留学先で履修 した授業科目は 本学の授業科 目として単位認 定の対象	
梨花女子大 東亜大 蔚山大 仁川大 釜山大 東亜大 慶熙大 釜慶大 啓明大 東国大(慶州キャンパス) 国民大 華東師範大	4人以内 2人以内 2人以内 2人以内 5人以内 2人以内 2人以内 2人以内 2人以内 2人以内 2人以内				
揚州大 広州大 烟台大 中央財経大 輔仁大 国立高雄大	2人以内 2人以内 2人以内 2人以内 2人以内				
オーストラリア	2人以内				
アメリカ	2人以内				
イギリス	10人以内 10人以内				
フランス	2人以内 4人以内				
ブラジル	2人以内				
20万円	8月から 約1年間				25万円

海外研修

派遣先大学	派遣人数	派遣期間	福岡大学助成	備考
蔚山大 蔚山大	21人	3週間 (8月上旬~)	往復渡航費	日本語による 作文・面接 英語能力試験・ 日本語による 作文・面接
ウオッシュバン大	21人	1か月 (2月中旬~)		
グリフィス大	21人			

海外語学研修

研修言語	派遣先大学	派遣人数	派遣期間	備考
英語	ニューカッスル大	イギリス	25人	3週間 (8月上旬~)
中国語	揚州大	中国	20人	2週間 (2月下旬~)

学部独自の交換留学・海外研修

交流協定に基づく全学的な交流以外に、学部独自の交換留学や国際化教育の一環として、学部の特性を生かした学部独自の海外研修や海外語学研修を実施しています。

学部独自の交換留学

実施学部	派遣期間	人数	派遣先大学	備考
人文学部	半年~ 1年間	2人	パリ・デイドロ大	フランス
		5人	フリードリヒ・シラー大イエナ	ドイツ
		5人	デュースブルク・エッセン大	ドイツ
		2人	ルーヴァン・カトリック大	ベルギー

学部独自の海外研修

実施学部・学科	派遣先大学	備考	
人文学部	英語学科	バース大	イギリス
	ドイツ語学科	フリードリヒ・シラー大イエナ	ドイツ
	フランス語学科	ルーヴァン・カトリック大	ベルギー
法学部	法律学科・経営法学科	ビクトリア大	ニュージーランド
	経営法学科	シアトル大	アメリカ
経済学部	蔚山大	韓国	
商学部・商学部第二部	仁川大	韓国	
理学部	物理科学科・化学科	上海交通大	中国
		蔚山大	韓国
医学部	医学科・看護学科	啓明大	韓国
	看護学科	ウオッシュバン大	アメリカ

※上記以外にも学部により企業研究等の海外交流プログラムがあります。



ニューカッスル大



蔚山大

エクステンションセンター

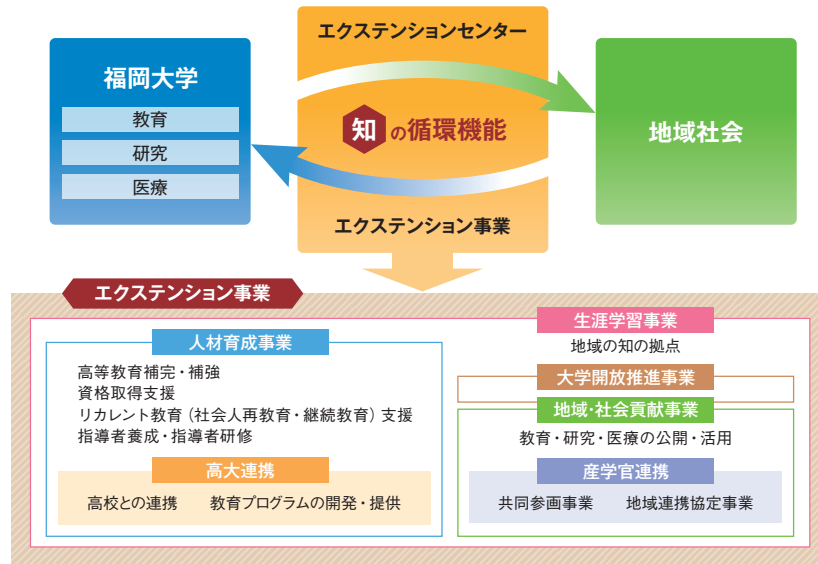
<http://webex.fukuoka-u.ac.jp>

エクステンションセンターは
学習活動を支援する正課外教育を行っています。

エクステンションセンターは人材育成事業を柱にさまざまなエクステンション事業を行っています。学部教育を補完、補強する教育支援から、卒業生をはじめとする社会人へのリカレント教育まで幅広い教育サポートをしています。

生涯現役

あなたの生涯設計をサポートします！



公務員採用試験対策講座
(合格者座談会)



秘書検定受験対策講座
(挨拶・接客マナー訓練)



コンピュータスキルを身につける
(Word、Excel®スペシャリストレベル)

10年後のなりたい自分になるために！

—エンカレッジセミナー《未来ノート》でなりたい自分になる！—

エンカレッジセミナーでは、ワークショップを通して「何のために、どう学び、将来どう役立てるのか」という学ぶことへの動機付けを明確にし、人生の戦略を描くトレーニングをします。発想力、論理力、コミュニケーション力を駆使し、自分だけの《未来ノート》を作成します。

「夢をカタチに！」するエクステンション講座

学生が社会へスムーズに移行できるように、各種エクステンション講座で資格取得や採用試験対策のサポートをしています。また、福岡大学父母後援会の支援を受けて、各種就職試験対策の講座を開講し、就職支援も行っています。

エクステンション講座では、毎年約7,000人を超える学生が自分の「夢をカタチに！」するために頑張っています。

公務員採用試験対策	国家一般職・地方上級・市町村職員等(行政職コース・技術職コース)、警察官・消防官・市町村職員等コースなど
国家試験対策	税理士、行政書士、看護師、薬剤師など
就職試験対策	SPI・時事、論作文・エントリーシート対策など
教員採用試験対策	小学校教員および小学校教員資格認定試験対策など
資格取得・検定対策	簿記検定、秘書検定、TOEIC®、MOS®、基本情報技術者など

※MOSはMicrosoft Office Specialistの略です。
この他にも多数講座を開講しています。詳しくはエクステンション講座のパンフレットをご覧ください。

リカレント教育・指導者研修

卒業生をはじめ社会人を対象に、職業能力の向上となる、より高度な知識や技術を身につけるためのリカレント教育を実施しています。

この他、公開講座「福岡大学市民カレッジ」を開講し、生涯学習支援を行っています。

教育・臨床心理学科セミナー2015
スマートフォン・プログラミング講座
メンタルヘルス・ファシリテーター(MHF)講座
薬学部卒業後教育講座
(公財)日本サッカー協会認定「公認キッズリーダー」養成講座

※この他にも多数講座を開講しています。詳しくは福岡大学エクステンションセンターのウェブサイトをご覧ください。

課外教育活動

心身を錬磨し自立性や社会性を養う課外教育活動

本学には、学術文化部会39部1同好会、体育部会42部1同好会、さらに愛好会として78団体、商学部第二部に学術文化部会10部、体育部会9部1同好会、愛好会2団体があり活動しています。これらの各団体の多くが、西日本はもとより全国大会においても優秀な成績を収め、輝かしい実績と伝統を誇っています。

また、「野外教育キャンプ」や「学生チャレンジプロジェクト」を募集するなど個性的な課外教育プログラムを実施しています。



<http://www.fukuoka-u.ac.jp/activity/club/>

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/support/program/>

「1^{ワン}パーソン、1^{ワン}サークル」の推進

本学は、学生一人一人が大学公認のサークル活動において、共同生活を通じて協調性や行動力といった多面的な能力と豊かな人間性を培う課外教育活動を推奨し、応援します。課外教育活動には、全学生の36%に当たる約7,000人が参加し、活動を通じて人格形成に励んでいます。



学長賞

平成22年度創設の「学長賞」は、在学中の課外活動において優秀かつ顕著な成績を収め、本学の名声を高めるなど著しく貢献した学生を卒業式において表彰するものです。

平成26年度は、スポーツ科学部卒業 田中 利江さん(なぎなた同好会)、スポーツ科学部卒業 大武 峻さん(サッカー部)、商学部卒業 立石アルファ裕一さん(卓球部)の3人が受賞しました。

学生 チャレンジ プロジェクト

学生チャレンジプロジェクトは、学生が自主的に自由な発想から企画する独自のプロジェクトを、大学が物心両面で支援する制度(1件につき10万～50万円を助成)です。プロジェクトは身近なことからキャンパスライフ、地域問題、環境問題、福祉、文化、学術、政治経済など、自発的、自主的なものであればジャンルを問いません。学生はこのプロジェクトを通じて、行動力、探究心、創造力等を自由闊達に発揮しています。

附属学校・留学生別科

附属大濠中学校

<http://www.ohori.ed.jp/>

ハイレベルの進学を目指しながらも、
教育目標のもとに幅広い人格の育成を根幹に置く。



設立 平成8年4月

平成8年に開校した福岡大学附属大濠中学校は大濠高等学校との中高一貫システムを取っています。ハイレベルの進学を目指しながらも、その根幹には新たな時代に即応した「教育目標」をもとにした幅広い人格の育成があります。

国際的な視野を養う一方、高い知性と豊かな感性を養うことに主眼を置いており、自由で伸びやかな学校生活を送れるように教育環境を整えています。日々の学習はもとより、部活動や課外活動、海外研修など、全て教育目標に即して設定されています。

平成23年度から男女共学になりました。

附属大濠高等学校

<http://www.ohori.ed.jp/>

「明朗闊達・自重敬他・研学錬体・進取創業」の校訓のもと、
学業・スポーツ・文化の各分野で輝かしい成果を挙げる。



設立 昭和26年4月

昭和26年の創立以来、建学の精神である「道德教育」を教育の根幹に据え、「明朗闊達・自重敬他・研学錬体・進取創業」の校訓のもと、各分野で輝かしい成果を挙げています。「中高一貫コース」「スーパー進学コース」「進学コース」の3コースを持ち、おのおのの志望に合わせたクラス編成をするなどきめ細かな指導をしています。

スポーツ面でも、球技・武道・陸上競技のほとんどのクラブが全国大会で活躍するなど、特色ある私学教育の実践に努めています。福岡大学との連携のもとに新校舎・体育館が平成22年に完成し、教育施設がより一層充実しました。

平成24年度から男女共学になりました。

附属若葉高等学校

<http://www.f-wakaba.ed.jp/>

「強く、正しく、優しく」の校訓のもと、生徒一人一人を大切にし、
深く生徒にかかわる教育を実践する。



設立 平成22年4月、
明治40年6月
(旧九州女子高等学校)

建学の精神である「社会に貢献できる知性と徳性に優れた人間性豊かな人の育成」を教育理念とし、「強く、正しく、優しく」の校訓のもと、社会で活躍できる知性と教養を身に付けた人間の育成に努めています。

福岡大学との連携による高大一貫教育プログラムを提供しながら、若葉フォリオ(修学履歴)の活用、課題研究への取り組み、福岡大学模擬講義などとおし、大学での高等教育を受けるにふさわしい人材の育成を実践しています。

「福大コース」「特別進学コース」「進学コース」「国際コース」「進学体育コース」の5コースを擁し、一人ひとりの生徒の進路目標の達成に努めています。

また、正課の学習にとどまることなく、部活動・生徒会活動・ボランティア活動等、幅広い教科外活動への積極的参加を促しています。

留学生別科

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu867/index.html>

広く国際文化の交流に寄与するとともに、
国際的視野を備えた人材を育成する。



留学生別科は、福岡大学の学部・大学院を始め、日本国内の大学や大学院等への進学を希望する外国人留学生を対象とした教育課程で、日本語・日本事情に関する知識の習得および学部や大学院で学ぶために必要な学力の習得を目的として平成24年4月に開設されました。

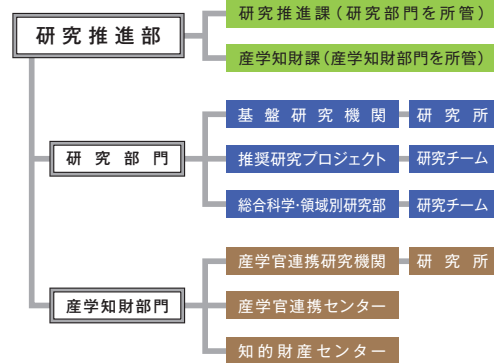
豊富なカリキュラムの下で、日本語・日本事情に関連した授業を受講できるだけでなく、日本語能力が十分な者については学部授業を聴講することも可能です。留学生別科生は大学キャンパスという好環境の中で、図書館や食堂などの大学の諸施設を利用しながら学ぶことができます。

また、留学生別科では、奨学金や安価で通学に便利な留学生用宿舎の紹介など、有意義な学生生活が送れるような学生サポートも充実しています。

研究推進部

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu844/home2/>

研究推進部は昭和31年に設置された研究所を前身としています。これまで諸分野にわたる研究調査を行い、学術の進歩に寄与することを目的として研究活動を続けてきましたが、平成23年4月に「研究部門」と「産学知財部門」の2部門からなる組織に再編し、研究推進、産学官連携および知的財産の分野を一体化させました。総合的な研究活動および産学官連携事業を推進し、本学が持つ知的資源による社会貢献がより期待できる体制になって活発な活動を行っています。



研究部門

基盤研究機関

研究活動の活性化と研究水準の向上を図り、本学における研究基盤の将来的構築に寄与することを目的に研究所を設置しています。

福岡大学基盤研究機関研究所

- 福岡・東アジア・地域共生研究所
- 先端分子医学研究所
- てんかん分子病態研究所
- 身体活動研究所
- 光学医療研究所
- 膝島研究所
- 心臓・血管研究所
- 再生医学研究所



推奨研究プロジェクト

科研費等の採択を受けた研究課題を基に、さらなる発展的研究課題を設定したプロジェクト(研究チーム)を設置しています。特に若手研究者へ重点的に研究費を配分しています。

総合科学・領域別研究部

総合的、国際的、学際的な共同研究の総合科学研究部および学術領域的な共同研究の領域別研究部を設置しています。総合科学研究部には、若手研究者だけにより組織された研究チームも設置しています。現在、総合科学研究部および領域別研究部で約100チームによる研究が進んでいます。

総合科学研究部

- 総合科学研究部研究チームI(主に理系対象)
- 総合科学研究部研究チームII(主に文系対象)
- 総合科学研究部研究チームIII(文系理系不問)
- 総合科学研究部研究チームIV(若手研究者対象)

領域別研究部

- 人文科学研究部・社会科学研究部研究チーム(一般)
- 人文科学研究部・社会科学研究部研究チーム(重点化)
- 理工学研究部研究チーム
- 生命科学研究部研究チーム

学位論文出版助成

本学の専任教育職員の学位取得者または学位論文提出予定者の博士論文出版費用の一部を助成しています。

古文書・民俗資料の収集および管理

研究に必要な貴重な古文書や民俗資料(民具等)を収集しています。一部はウェブサイトで公開しています。



中村家文書(幕末期の筑前商人史料)

研究成果の公表および公開



研究成果を、論叢、紀要、研究部論集等において発表し、ウェブサイトでも公開しています。

学術講演会等の開催

国内外からの著名な研究者を招聘した学術講演会やシンポジウムの開催を支援しています。

学会開催支援

本学で開催される学会に係る経費の一部を助成しています。

学外研究資金・補助金・助成金等の受け入れおよび管理

科研費等の競争的資金の獲得のために積極的に取り組んでいます。また、受託研究費、寄付研究、研究助成寄附金等を受け入れ、さまざまな分野での研究を行っています。

共同研究・研究交流

研究活動をさらに発展させるために、学外研究機関との共同研究や研究交流の受け入れを行っています。

研究者情報

本学の研究者の情報(プロフィールや研究業績)をウェブサイトで公開しています。「福岡大学研究者情報」で検索)

研究推進部 研究機関研究所

産学知財部門

産学官連携 研究機関

産学官連携活動の推進を図り、研究成果の実用化等の促進を目的に研究所を設置しています。

福岡大学産学官連携 研究機関研究所

都市空間情報行動研究所	加齢脳科学研究所
次世代人材開発研究所	ライフ・イノベーション医学研究所
安全システム医工学研究所	国際火山噴火史情報研究所
材料技術研究所	複合材料研究所
資源循環・環境制御システム研究所	水循環・生態系再生研究所
半導体実装研究所	福岡から診る大気環境研究所

知的財産 センター

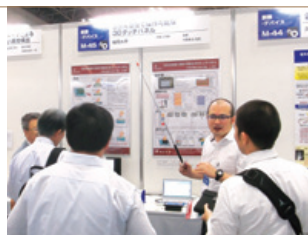
平成20年4月に、本学で生み出された特許、実用新案、意匠、商標、著作、ノウハウなどの知的財産を発掘、権利化し、一元管理するために設置されました。これらの知的財産を産業界に還元し、地域および社会の発展に貢献していきます。

- 知的財産の創造、保護および活用
- 発明相談、出願手続き、知的財産評価
- 知的財産の管理情報の紹介
- 知的財産に係る啓発、セミナー、教育など

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu858/home1/>

産学官 連携センター

平成18年4月に、地域に密着した企業ニーズ対応の産学官連携を目指して設置されました。大学シーズの提供と企業ニーズの発掘を行うためのさまざまな取り組みを行っています。また、総合大学のメリットを生かし、環境、半導体、自動車、ナノ健康、予防医学、バイオ、安全安心な社会整備等、広範囲な分野での産学官連携を通じて、地域の活性化と社会貢献を推進しています。



企業からの技術相談	シーズの学外展示会の企画、出展
企業ニーズの発掘	産学コーディネイト活動
大学シーズの提供	共同研究・受託研究・技術指導等のマッチング
産学交流の場の提供	各種セミナーの開催
産学官連携事業	コラボレーションネットワーク、福岡大学産学連携協議会
シーズ集の作成	http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu853/home1/

研究部門 (基盤研究機関研究所)

福岡・東アジア・ 地域共生 研究所

東アジアを見据えつつ、福岡都市圏を中心に、地域活性化・男女共同参画社会の実現・地域防災力の向上・地域医療連携の構築等に寄与する基礎研究および地域実践活動を行っています。

光学医療 研究所

内視鏡を用いて診断・治療を行う光学医療に携わる国内外のトップレベルの研究者と連携し、最先端の光学医療を自ら開発し、臨床に応用する集学的研究組織としての活動を行っています。

先端分子 医学研究所

Central Research Institute for Advanced Molecular, Medicine, Fukuoka University (FCAM)

癌・糖尿病・肥満などの生活習慣病および免疫関連疾患の多因子疾患群を対象として、病因・病態の解明、さらには、先駆的治療法・予防法開発のための基盤構築に資することを目的として活動しています。

膝島研究所

独自の手法によりマウスおよびヒト膝島のインスリン産生細胞の障害、再生、起源、分化ならびに創生に関する基盤的研究とその成果を基に糖尿病の根治的治療法の開発を目指して活動しています。

てんかん分子 病態研究所

斬新な取り組みでてんかん分子病態に挑んでいる世界的に見ても数少ない専門研究機関です。さらに、その研究結果から副作用の少ない革新的な治療薬の開発を目指して活動しています。

心臓・血管 研究所

動脈硬化症、虚血性心臓病、心不全、不整脈、肺高血圧症等の先進的治療技術・治療薬の開発に産学官が連携し、研究者がアカデミアを共有し、臨床応用できる物づくりの場として活動しています。

身体活動 研究所

国内外の研究機関と連携し、特に、生活習慣病の予防・治療、介護予防、抗加齢に効果的な運動プログラムの開発と運動習慣形成を支援するシステムの構築を目指して活動しています。

再生医学 研究所

再生医療は施行される大部分が、細胞治療として提供されています。研究所では、(1)幹細胞選別及び評価チーム、(2)神経再生チーム、(3)血管リンパ管再生チーム、(4)内分泌細胞再生チームの4つの研究チームを編成し、萌芽研究から臨床試験を含むテーマを推進します。

産学知財部門

〈産学官連携研究機関研究所〉

都市空間情報
行動研究所

消費者の回遊行動研究をもとに、まちづくりの科学的方法を開拓してきました。現在、スマホやICT、ビッグデータを活用した回遊動態のリアルタイム把握や来訪者への情報提供など、まちの価値を高めるアナリティクスやビジネスモデルの開発を行っています。

次世代人材
開発研究所

「人材育成」をテーマに、本学が福岡の発展を通して、九州や日本、アジアの発展に貢献するために、九州のNPO、地方政府、企業などとの連携を通じた次世代人材開発の拠点として活動しています。

安全システム
医工学研究所

人のミスなどによって引き起こされる交通事故や産業事故の防止、被害軽減をテーマに掲げ、産学官それぞれに所属するさまざまな分野の研究者が連携しながら「安全」という命題に取り組んでいます。

材料技術
研究所

安心で安全な社会を支える基礎技術である材料技術に関する研究分野を対象に、「学際的・国際的」研究を行うプラットフォームを構築して新産業を創出することを目的として活動しています。

資源循環・
環境制御
システム研究所

廃棄物大型実証施設やその研究成果をベースに、廃棄物の無害化技術やリサイクルによる減量化、資源化技術の企業への技術移転とともに、国内外の企業や自治体との新たな産学官連携研究を推進しています。



半導体
実装研究所

先端半導体を3次元構造に組み立てるために必要な要素技術を開発し、設計から試作、解析、試験までの一連の工程を行うことができ、高密度で高性能な機器の開発を産学官が連携して推進しています。



加齢脳科学
研究所

さまざまな老年期疾患に対して、疾患にならない体づくりのための研究と同時に、どのようにして発症するかを深く追及し、発症を最低限で食い止める新しい治療法、治療薬の開発を目指して活動しています。

ライフ・
イノベーション
医学研究所

ライフサイエンス領域における大学および企業から発信された最先端の研究成果を、医薬品・医療機器・健康関連商品などとして社会へ還元することをミッションとして活動しています。

国際火山噴火
史情報研究所

火山噴火災害の防止、軽減等に役立つ火山噴火史の解明のための情報収集・情報発信の拠点として、データベースを構築して情報の共有化・効率化を図り、火山リスクの評価等への積極的活用を目指しています。



複合材料
研究所

次世代の技術として期待されている複合素材技術の実用化の実績・経験を生かし、社会ニーズに合った複合素材の総合的开发、特に機能性素材の環境低負荷製造技術の開発を目指して活動しています。

水循環・生態系
再生研究所

健全な水循環の回復と、失われた生態系の再生を進める技術の確立を目的に、水循環を再生させる技術開発および仕組み作りや、さまざまな水域における現象観測および研究開発を産学官連携で推進しています。

福岡から診る
大気環境
研究所

大気環境観測をもとに、医学的な研究と融合させることで、福岡とそこに流入する大気の源流であるアジア地域の大气を「診」断し、健全なる地球環境の保全と社会の健康の増進に寄与することを目指しています。



大学病院

<http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/index.html>

福岡大学病院



昭和47年の医学部設置に伴い、翌年8月に開院しました。現在は本館、新館、西別館、救命救急センター棟、デイケア棟および研修センターA棟・B棟の7棟からなり、延べ床面積は90,216.54㎡です。全23診療科からなり、医師470人、臨床研修医79人、看護師1,005人、コ・メディカル267人、その他167人の総勢1,988人が医療に従事しています。許可病床915床が用意され、外来患者は1日平均1,270人、手術例数も年間8,500例を超えています。開院以来、常に医療技術の向上、医療機器の整備、診療組織の充実に力を注ぎ、地域医療に貢献しています。

また、新館の福岡市営地下鉄七隈線福大前駅との直結、福岡都市高速環状線の開通により、市中心部、西南部からのアクセスが格段に向上しました。

病院の基本理念

あたたかい医療

- 高度先進医療の指導的病院
- 健康のための情報発信基地
- 地域に開かれた中核的医療センター
- 社会に必要とされる優れた医療人の育成
- 社会のニーズに応える患者中心の医療の提供

外来診療案内

受付時間	月～金曜	初診 8時30分～12時
		再診 8時30分～15時
	土曜	初診・再診 8時30分～11時
休診日	日曜・祝日(振替休日を含む)	
	盆休(8月15日)	
	年末年始(12月29日～1月3日)	

特定機能病院

当院は病院の機能を第三者の立場で評価を行う、財団法人日本医療機能評価機構の「病院機能評価(Ver.6.0)」更新審査を受け、平成21年11月22日付で認定が継続されています。

今後も、福岡大学病院の基本理念「あたたかい医療」に基づき、患者さんのニーズを踏まえながら最も適切で質の高い医療を効率的にご提供できるよう、充実・向上に努めていきます。

診療各科	腫瘍・血液・感染症内科	内分泌・糖尿病内科	循環器内科
	消化器内科	呼吸器内科	腎臓・膠原病内科
	神経内科・健康管理科	精神神経科	小児科
	消化器外科	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	整形外科
	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科
	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科
	麻酔科	歯科口腔外科	
診療各部	病理部	臨床検査部	内視鏡部
	輸血部	放射線部第一	放射線部第二
	手術部	栄養部	リハビリテーション部
	血液浄化療法センター	医療情報部	救命救急センター
	総合周産期母子医療センター	総合診療部	東洋医学診療部

学んで予防!

《福大病院 健康セミナー》を開催しています。



城南区医師会や城南区役所、城南保健所等の協力を得て「学んで予防!《福大病院 健康セミナー》」を開催しています。

このセミナーは、「病気になるようにするには、どういう心掛けが必要か?」「病気になる?と思ったらどうしたらいいか?」「日常生活を健康に過ごすためにはどうしたらいいか?」等、地域にお住まいの方が日頃から気になっている病気のことについて等毎月テーマを変えながら開催しています。

講師は、当院の医療スタッフと、城南区医師会に所属する医師がコラボレーションしています。

場 所 福大メディカルホール(地下鉄七隈線福大前駅と直結)
開催日 平成27年度 5月21日、6月18日、7月16日、8月20日、9月17日、10月15日、11月19日、12月18日、1月21日
時 間 午後2時30分～午後4時
 ※詳細は福岡大学病院の公式ウェブサイトをご覧ください。

福岡大学 筑紫病院

http://www.fukuoka-u.ac.jp/chikushi/index.php



当院は、平成25年1月に新病院棟が竣工し、平成25年5月7日に開院しました。

新病院は、延べ床面積26,016㎡、地上9階建て、鉄筋コンクリート造(免震構造)を擁し、許可病床数310床で、21の診療科を有します。そして、全館にわたりバリアフリーで、ユニバーサルデザインを実践しています。

ICU、HCU、SCUなどの集中治療室の充実により、術後のより安全な管理が可能となります。また小児病棟の新設により、地域の小児救急医療支援事業の拠点病院として、地域医療へのさらなる貢献を目指しています。他にも、専門的な診断治療が必要な炎症性腸疾患のIBDセンター、呼吸器センター、脳卒中センター、外来化学療法室、リハビリテーションセンターなど充実した治

療環境を整備しております。

建物周辺の庭園やバルコニーに積極的に植栽を施し、平成26年6月に緑あふれる癒やしのガーデンホスピタルと立体駐車場が完成しました。

外来診療案内

診療受付時間 月～金曜 8時40分～11時00分
土曜 8時40分～10時30分

休診日 日曜・祝日(振替休日を含む)
盆休(8月15日)
年末年始(12月29日～1月3日)

診療各科

循環器内科	内分泌・糖尿病内科	呼吸器内科	消化器内科
小児科	外科	整形外科	脳神経外科
泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科
救急科	麻酔科		

診療科 標榜科

内科	消化器外科	呼吸器外科	リウマチ科
皮膚科	リハビリテーション科	病理診断科	

診療各部門

病理部	臨床検査部	内視鏡部	放射線部
手術部	材料部	栄養部	リハビリテーション部
医療情報部	看護部	薬剤部	臨床研究支援センター
臨床工学センター	地域医療支援センター	医療安全管理部	事務部

地域医療支援病院

厚生労働大臣の定める者の開設する病院であって、地域における医療の確保のために必要な支援に関する要件に該当するもので、所在地の都道府県知事の承認を得た病院。

関連する要件

1. 他の病院または診療所から紹介された患者に対し医療を提供する。
2. 当該病院の建物、設備機器を開放し、診療、研究または研修のために共同利用させること。
3. 救急医療を提供していること。
4. 地域の医療従事者の資質向上を図るための研修を行うこと。

救急医療の充実(ER)

当院では欧米型ERシステムの救急医療を行っています。救急指導医・専門医の下、各診療科当番医師による24時間体制を執り、二次救急患者の対応に当たっています。重症例では、救急科と循環器内科、外科、脳神経外科、小児科が中心となって対応し、また緊急時には、当院の初期臨床研修医全てが対応するシステムも採用しています。平成26年4月から平成27年3月までの救急車搬送件数は3,213件で、その約30%が脳血管障害、虚血性心疾患、ショック、重症外傷、急性薬物中毒症例です。担当する筑紫地区の人口は約43万人で、筑紫医療圏(筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川町)の搬送件数は、平成27年3月現在で、2,674件となっています。

IBD(炎症性腸疾患)センター

炎症性腸疾患はクローン病と潰瘍性大腸炎からなり、難治性疾患であり近年患者数が著しく増加しております。国の対策として研究班が構成され、臨床的にも基礎的にも研究されてきましたが、根本的な原因は未だ解明されておりません。当院は各方面から多くの対象患者紹介を受け、日本でもトップクラスの優れた治療実績を残しております。これらの困難な治療にはIBDの専門家の診療が重視されるため、診療体制の充実が不可欠となり、筑紫病院の消化器内科、外科、基礎の病理部の共同による「IBDセンター」を平成24年4月から開設し、専門に特化した外来を運用しています。

地域の方々との交流を通じて、
大学の「教育」「研究」「医療」活動の
成果を地域に還元する。

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/community/>

防犯ボランティア「ななくま元気にするっ隊」

本学学生と大学周辺地域住民の方々で、防犯ボランティア活動を実施。平成22年に始まったこの活動では、地域住民の方々、警察からの協力を得ながら清掃活動、夜間の防犯パトロール、二輪車盗難防止キャンペーンなどを行っています。



東日本復興支援プロジェクト

平成23年度から26年度まで、「東日本災害ボランティア」福岡大学派遣隊として被災地の支援を行ってきました。平成27年度からは「東日本復興支援プロジェクト」と名称を改め、東北の復興へ向けた支援を行うとともに防災および災害支援について学習する課外教育プログラムとして実施します。



気仙沼市での学童支援



陸前高田市での遺留品捜索活動

公開講座「福岡大学市民カレッジ」—子どもから大人まで 生涯現役であるために—

本学の教育・研究・医療を通じて得られた成果を「教育プログラム」として地域の皆様へ提供し、生涯学習や人生設計に役立てていただけるよう、さまざまな講座(春季・秋季)を開講しています。



生涯現役は頭と身体の健康から(ホノルルマラソンを完走しよう!)



キッズ・スポーツプログラム(キッズ・サッカークラブ)

平成27年度春季開講講座

異文化・学・教養

- ことばの雑学—類似性と多様性—
- 実用フランス語技能検定試験対策講座(2級・準2級)
- ドイツ語技能検定試験対策講座(4級・5級)
- 英語で学ぶイギリス学
- 映像にみるヨーロッパ文化—ドイツ語圏—
- 映像にみるヨーロッパ文化—フランス語圏—

地域・市民連携

- 地域共生型起業塾2015
—自分の仕事は自分でつくる。地域とつながる仕事のしかた・生き方・働き方を考える—
- 地域活性化支援塾

からだ健康スポーツ

- 女性のための元気体操教室
- ホノルルマラソンを完走しよう!
- キッズ体操教室
- キッズ・ラグビーフットボール(タグラグビー)教室
- キッズ・サッカークラブ
- キッズ・バレーボール教室
- キッズ・バスケットボール教室
- ニコニコ健康づくり 一日体験教室

サマースクール・フレカレッジ

- 体験!化学の不思議—化学への招待—
- 体験して学ぶコンピュータ科学—クイズや手品でコンピュータのしくみを学ぼう!—
【小学生コース】【中学生コース】

キッズ・エコクラブ

環境問題を体験しながら学ぼう!

- 水の旅
- 親子で学ぶスマート省エネ発想術
- 水辺の自然探検隊—親子で楽しむ室見川自然観察会—

リカレント教育 指導者養成

- スマートフォン・プログラミング講座
①Swiftプログラミング入門
- スマートフォン・プログラミング講座
②Swiftによるアプリ作成入門
- 教育・臨床心理学科セミナー 2015
- メンタルヘルス・ファシリテーター(MHF)講座
- 第46回薬学部卒後教育講座—薬学教育・研究の最前線—

大学開放推進事業

「福岡大学を知る」シリーズ

- 噴火史研究にもとづく桜島火山の噴火予測—噴火規模と年代でつくる階段図は何を語るか?—
- サッカーにおけるフリーキックの科学
- 薬の危険な飲み合わせ・食べ合わせ
- 良医とは何か?—医学部のミッションを解説します—

※秋季開講講座は未定
※詳細は福岡大学エクステンションセンターのウェブサイト
(<http://webex.fukuoka-u.ac.jp>)をご覧ください。

福岡市との連携事業

「地域交流サロン」を開設

平成27年4月、本学60周年記念館2階に「地域交流サロン」を開設しました。

本学は向こう10年の長期ビジョン「福岡大学ビジョン2014-2023」を策定し、4つの重点項目の一つに、「福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進」を位置づけています。これに先駆け、平成26年3月に本学と福岡市は広範の分野で連携協力に関する協定を締結しました。これらの具体的な実現に向けて、今後「地域交流サロン」は、大学、行政、地域が日常的に対話・交流し、社会のさまざまな課題解決や新しい価値の創造に取り組んでいくための拠点となります。



打ち合せや意見交換に利用可能なスペースを完備



イベント情報等を集めた地域情報コーナー



ワークショップやセミナー等の地域交流イベントを開催

地域の科学教育啓発推進活動

理学部の教授陣が、子どもたちに科学の楽しさや技術の素晴らしさを伝えて科学への興味・関心を高めてもらおうと、地域の小中学校や公民館で理科教室をはじめとした理科学イベントを開催しています。さらに、読書の専門家である図書館司書と科学者とが連携し、科学の絵本の読み聞かせと実験工作を組み合わせたプログラムである「理科読」を開発・導入して、地域の科学教育を推進しています。



シロウオ産卵床造成プロジェクト

福岡の春の風物詩として全国的に有名な室見川のシロウオの漁獲量が近年減少していることを憂慮し、毎年2月に福岡市内を流れる室見川で、工学部社会デザイン工学科の学生を中心に構成された「はかたわん海援隊」の学生が漁協関係者や行政職員、地域住民と一緒にシロウオの産卵環境の改善活動を実施しています。川底の砂の中に埋もれて減っているシロウオの産卵場所であるグリ石を掘り起こして産卵環境を復活させています。活動を通して、川の大切さや再生の重要性を地域市民と一緒に考えています。



多彩な教育プログラムを持った さまざまなセンターが学生一人一人を 支援しています。

入学から卒業まで、学生にさまざまな情報を提供。
一人一人の学生生活をサポートする各種センターを教育研究体制の一環として整備しています。

入学センター

<http://nyushi.fukuoka-u.ac.jp/>

多様なニーズに応じた入学試験を実施。

本学のアドミッションポリシーの下、移り変わる社会の流れを捉えた入試制度を検討し、公正かつ正確な入試の実施に努めています。

また、各地の進学説明会や高等学校等への訪問活動を通じて、高校生や教員、保護者、一般の方へ入試情報を提供しています。オープンキャンパスは本学をより理解していただけるプログラムを満載し、全学を挙げて毎年開催しています。

推薦入試
AO入試
一般入試
センタープラス型入試
大学入試センター試験利用入試
帰国子女入試
社会人入試
編・転・学士入試



オープンキャンパス



合格発表

共通教育センター

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu846/home1/top1.htm>

総合大学ならではの多彩な授業科目がバランス感覚を育む。

本学では、豊かな個性を生かし、幅広い知識と判断力を持った責任ある社会人となることを目的に、共通教育科目を開講しています。

共通教育科目は、総合教養科目、外国語科目、保健体育科目、単位互換科目に分かれています。総合教養科目には人文・社会・自然科学の各系列および総合系列科目・学修基盤科目があり、約100の多彩な授業科目を開講しています(学部・学科によっては設置科目が異なります)。



言語教育研究センター

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu827/home1/>

グローバル化が進む中で異文化間コミュニケーション力をアップ。

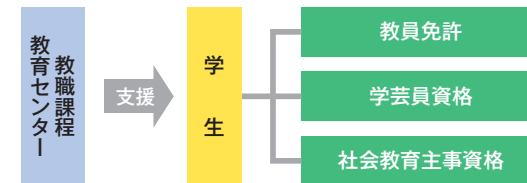
本学では、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語・ロシア語の7言語と、留学生を対象とした日本語を共通教育外国語科目とし、4技能(聞く・話す・読む・書く)の修得を目標にするとともに、語学力と異文化理解の促進を図っています。英語を例に挙げれば「リーディング&リスニング」「検定対策英語」「インタラクティブ英語」「リーディング&ライティング」「CALL&オーラル・コミュニケーション」「グローバル・イングリッシュ」という6つの目的別クラスを設けるとともに、e-learning教材の提供や海外の文化に関する講演会などを行っています。

教職課程教育センター

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu859/kyosyoku/>

教員、学芸員、社会教育主事を目指す学生を支援。

教職課程教育センターでは、教員を目指す学生に対して、教員に求められる資質や能力を身に付けるためのプログラムを提供しており、卒業時に教員免許状を取得できるようにサポートしています。また、学芸員や社会教育主事の資格取得を希望する学生の支援も行っています。



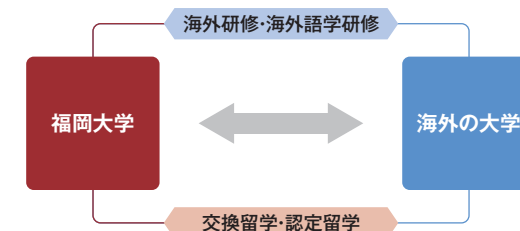
国際センター

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu809/home1/a0800000.htm>

学生の海外留学を促進し、教育研究の国際化を積極的にサポート。

国際センターでは、留学生との交流活動や留学に関心がある学生に対するアドバイス、諸手続など留学に関する情報の提供やサポートを行っています。

※認定留学については各学部事務室へご相談ください。



就職・進路支援センター

<http://www.career.fukuoka-u.ac.jp>

より良い進路・職業選択をバックアップ。学生の夢を切り拓く力になる。

就職・進路についての意識の向上を目指して、就職活動に役立つ能力を育成するキャリア形成支援、全学年を対象にした学生一人一人への個別指導、インターネットをフルに活用した情報提供(FUポータル、就職・進路支援センターウェブサイト、Facebook)を行っています。

また、学生のキャリア支援・職業観を高めていくために、インターンシップ(国内・海外)を推進しており、特に1年次からの取り組みを強化しています。



エクステンションセンター

<http://webex.fukuoka-u.ac.jp>

学部教育にプラスアルファの各種の資格取得、採用試験対策講座で「夢をカタチに!」する支援を行う。

在学生には、学部教育に加えて、理論と実務を結び付ける教育支援を行うとともに、社会人と共に学ぶ共創型学習プログラムを提供し、問題発見・解決力、コミュニケーション力を磨き、社会(就職)へのスムーズな移行ができるようサポートをしています。



健康管理センター

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu826/kenkan/index.html>

健康管理センターでは、健康相談や毎年全学年を対象とした定期健康診断を行っています。また、正課中に発生した疾病等の応急処置や健康管理に向けたスリム教室や禁煙相談も行っています。



ヒューマンディベロップメントセンター

(HDセンター：学生相談室)

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu816/home1/hd1.htm>

本センターでは、人間関係や学業のこと、心身の健康、将来のことなど学生生活を送っていく上で出会うさまざまな悩みや不安について、専門のカウンセラー(臨床心理士)に相談できます。相談は無料で相談内容の秘密は守られます。また、静かに休憩できる「フリースペース」を利用したり、「コミュニケーション」「リラックス法」などのセミナーや、仲間づくりのグループに参加したりすることもできます。



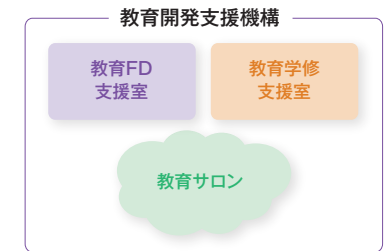
教育開発支援機構

教育開発支援機構は、教育内容、教育方法等の組織的かつ継続的な改善を図る福岡大学の教育FDを推進しています。

教員が教育・研究・大学の管理運営などに関する諸能力を開発するための組織的な取り組みをFD (Faculty Development) と言います。本学が用いる教育FDという用語は、教育に特化した狭義のFDを意味します。

教育開発支援機構では教育に関する情報・ニーズの調査分析をし、全学的な教育の開発や教員研修およびセミナー等の企画・実施を行い、各部局の教育FDを支援しています。また、学生の主体的な学びを実現するため、正課外での学びの場の提供や正課授業と密接に関連付けられた学修支援を行っています。なお、この目的のため、機構内に「教育FD支援室」と「教育学修支援室」を設けています。さらに、機構の業務は教職協働によって行われますが、教職員に加え、学生とも自由に教育に関する情報交換や議論を行うための場として「教育サロン」を設けています。

二つの支援室と教育サロンが機構の核となり、教育に関する情報や問題の学内での共有化を行うとともに、各部局と連携して本学の教育FDを推進していきます。



平成26年度の主な活動実績

教育FD支援室

- 新任教育職員研修会の実施
- 教育改善活動フォーラムの開催
- E-labo(エデュケーション・ラボ)の実施 など



教育学修支援室

- 「大学から始める『言葉の力』育成プログラム」(前期開講)
- 『福大生のための学習ナビ』の作成
- レポートのライティング指導 など



教育サロン

- 教職員による教育に関する情報交換会の開催
- 学内討論会の実施 など



福大生ステップアッププログラム

Fukuoka University students Step up Program

本学は、「建学の精神」と「教育研究の理念」に基づいた全人教育、すなわち、専門性を有する教養人(人らしき人)の育成を重視した教育を進めています。その一環として、次の3点の向上を目的とした福大生ステップアッププログラム(FSP)を実施しています。



大学で学ぶ上で必要な基礎的
技能の向上

職業観、社会常識、マナーの向上



志、意欲、独創性、
人間性、倫理観、
異文化理解の向上

STEP

1

「学び」へのステップ

大学で学ぶ上で必要な基礎的
技能の向上

- これでわかる「福大生のための学習ナビ」
- 福大生のための図書館活用プログラム
- エンカレッジセミナー《未来ノート》でになりたい自分になる!
- 大学から始める「言葉の力」育成プログラム



「福大生のための学習ナビ」



福大生のための図書館活用プログラム(選書ツアー)



大学から始める「言葉の力」育成プログラム

STEP

2

「豊かな人間性」へのステップ

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/fsp/index.html>

志、意欲、独創性、人間性、倫理観、異文化理解の向上

学生チャレンジプロジェクト	東日本復興支援プロジェクト
今を生きる教養講演会	アジア圏協定校との学生交流セミナー
七隈で学ぶ環境学～入門編～	

学生チャレンジプロジェクト



第14回今を生きる教養講演会(平成26年10月17日)
数学者・大道芸人 ピーター・フランクル氏



七隈で学ぶ環境学～入門編～



アジア圏協定校との学生交流セミナー

STEP

3

「社会」へのステップ

職業観、社会常識、マナーの向上

先輩と語る ―大学と社会―



先輩と語る ―大学と社会―(薬学部)



先輩と語る ―大学と社会―(スポーツ科学部)

奨学制度・学生保険

本学で学ぶ学生たちが、生活上の不安を感じることがないように福岡大学独自の奨学金や学生保険を整備。悔いを残さないよう学生生活をトータルにサポートします。

奨学制度

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/support/life/scholarship.html>

福岡大学特待生

学業成績ならびに日々の行いが特に優秀な学生を「特待生」として表彰する制度です。特待生に選ばれることは学生としてこの上ない荣誉であり、その荣誉を称えて奨学金(30万円。ただし、商学部第二部は15万円)が授与されます。特待生は全学部から約200人が選ばれます。

福岡大学独自の奨学金

奨学金の種類	形態	趣旨および資格	出願時期	採用期間	給付・貸与額	返還義務	平成26年度採用実績
福岡大学給費奨学金(一号)	給付	人物・学業成績ともに優秀でありながら、経済的な理由で学業継続に支障をきたすおそれのある学生を援助し、優れた人材育成を目的とする制度。	4月中旬	1年間	文系30万円、理系50万円。ただし商二部は15万円。	なし	207人
福岡大学給費奨学金(二号)	給付	課外教育活動において、極めて特異な能力を有し、かつ優れた業績を示した者を育成する制度。	12月	1年間	60万円以内。活動・成績内容により決定。	なし	4人
福岡大学利子補給奨学金	給付	本学が提携する金融機関の教育ローンを利用している者に在籍期間中の利子相当額の全部または一部を給付する制度。	12月下旬	1年間	医学部医学科を除く学部学科:5万円以内。医学部医学科:10万円以内。	なし	27人
〔新設〕福岡大学有信会奨学金	貸与(無利子)	本学同窓会である有信会の協力支援により平成27年度新設。卒業見込みの原級歴のない最終学年次生であり、卒業単位まで20単位未満の者。	4月中旬	1年間	50万円を限度。	卒業後10年以内で返還	— (50人程度の予定)
福岡大学奨学金(貸与)	貸与(無利子)	人物・学業成績ともに優秀でありながら、経済的な理由で学業継続に支障をきたすおそれのある学生を援助し、優れた人材育成を目的とする制度。	4月中旬	1年間	64万円を限度	卒業後10年以内で返還	291人
福岡大学奨学金(緊急貸与)	貸与(無利子)	家計支持者の失職、死亡その他の理由により家計が急変し、修学が困難になった場合の、緊急の貸与制度。	随時出願可能	1年間	64万円を限度	卒業後10年以内で返還	1人

新たな奨学制度

平成28年度新入生を対象とした入学前予約型給付奨学金を新設します。平成27年11月に奨学金の申請を受け付け、12月中旬に採用候補者を発表する予定です。採用候補者は、一般入学試験に合格し入学することで正式に採用されます。詳しくは福岡大学公式ウェブサイト等で確認してください。

ななくま もり 七隈の杜 給付奨学金	ななくま もり 七隈の杜 第3子以降特別給付奨学金
給付奨学金(返済不要)。家計基準あり。文系学部30万円(商学部第二部15万円)。理系学部50万円。成績優秀者は特別増額あり。1年次に支給。採用候補者約2,000人。	給付奨学金(返済不要)。第3子以降の者対象。家計基準あり。30万円。1年次に支給。採用候補者約1,000人。
併給可	

国・地方自治体、民間奨学団体による奨学金

奨学金の種類	形態	趣旨および資格	出願時期	採用期間	給付・貸与額	返還義務	平成26年度採用実績
日本学生支援機構「第一種奨学金(無利息)」	貸与(無利子)	特に優れた学生で経済的理由により著しく修学に困難がある者。別に定める貸与基準(学力・家計・人物・健康)を満たすことが必要。	4月中旬	4年間または6年間	自宅通学者:月額3万円または5万4千円。 自宅外通学者:月額3万円、5万4千円または6万4千円。	あり	272人
日本学生支援機構「第二種奨学金(利息付)」	貸与(有利子)	優れた学生で経済的理由により修学に困難がある者。別に定める貸与基準(第一種奨学金より緩やか)を満たすことが必要。	4月中旬	4年間または6年間	月額3万円・5万円・8万円・10万円・12万円から選択。月額12万円を選択した場合に限り、医学部医学科は月額4万円、薬学部は月額2万円の増額可。	あり	378人
各種育英会・奨学団体奨学金(給費・貸与)		地方自治体や民間育英団体による各種奨学制度が多くあります。詳しくは学生課にお問い合わせください。					62人

学生保険

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/support/life/insurance.html>

学生健康保険互助組合

学生の傷病(歯科を除く)による経済的負担を軽減し、また健康の維持増進を図ることを目的とした制度。全国の私立大学でこの制度を実施しているのは17大学だけです。

学研災付帯賠償責任保険(任意加入)

国内外において学生が正課、学校行事、ボランティア活動およびその往復途中で他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償します。

学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中(正課・学校行事・課外活動中など、ただし通学中は除く)の災害に対する全国規模の補償制度。本学の全学生を対象とし、保険料は大学が全額負担しています。

学生総合保障制度(こども総合保険)

学内外、国内外を問わず、学生本人の万一の事故による死亡・後遺障害、入院、扶養者の万一のときの学資費用、個人・借家人賠償責任など24時間総合的に保障する任意加入の保険制度です。

図書館

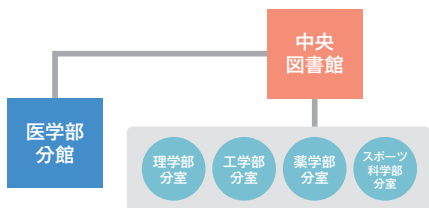
<http://www.lib.fukuoka-u.ac.jp/>

蔵書195万冊。充実した資料で学習・研究・情報活動を支援。



本学は創立以来、図書館の充実に努め、約195万冊の蔵書と全分野にわたる豊富な資料を備え、学内外の利用に供しています。また、図書のほか約2万タイトルに及ぶ雑誌や視聴覚資料などについて目録情報をデータベース化し、各種情報を提供する学術情報センターとしての機能も備えています。最新の設備を有し、電子図書館機能の充実をさらに図るとともに利用者にとって親しみやすい図書館を目指しています。

平成24年7月に開館した中央図書館はキャンパスの知の中心である図書館を象徴するにふさわしい外観とともに、内装には黒を基調としたカーペット、木製家具を使用し、自然換気、タスク&アンビエント照明、天井扇等を採用して、利用者が長時間滞在するための、学術的空間を提供しています。



閲覧室

また、図書の閲覧だけでなく、電子情報活用、グループ学習、ディスカッションなど多様なニーズに応える諸室を設け、特にラーニング・commonsには、大学院生によるライブラリー・アシスタント(LA)を配置して、自主的な学習を支援する体制を整えています。

1階のライブラリーラウンジは、安らぎを感じる空間となっており、全国紙、外国新聞のほか、九州各県、その他地方紙を閲覧できるコーナーやブラウジングコーナーも設けています。

館内には世界的著名アーティストによるアート作品も設置し、知の空間を演出しています。

開館時間

中央図書館	平日	8:50~22:00
	土曜日	8:50~22:00
	日曜・祝日	8:50~17:00
理・工・薬・スポーツ科学部分室	平日	8:50~21:00
	土曜日	8:50~18:00
	日曜・祝日	—
医学部分館	平日	8:50~22:00
	土曜日	8:50~22:00
	日曜・祝日	8:50~22:00

中央図書館と分室・分館をつなぐ電気自動車「ポポカ」



公募で決定した「ポポカ」という愛称で親しまれている、小さな黄色い電気自動車が、中央図書館と各分室・医学部分館間を巡回して資料の運搬を行っています。これにより、中央図書館で受け入れた新着図書や雑誌を迅速に、悪天候でも大切な資料を濡らすことなく各分室・医学部分館に運搬でき、さらに、次のサービスが可能となりました。

返却カウンターの自由化

貸出を受けた資料は、中央・各分室・分館の全てのカウンターで返却することができます。

「取寄せサービス」 「学内資料複写サービス」

中央図書館から離れているスポーツ科学部分室および医学部分館を起点として、中央図書館およびほかの分室との相互間で資料の取り寄せ、貸出および複写を希望することができます。

情報検索から貴重なコレクションの閲覧までできる図書館ウェブサイト

図書館ウェブサイトでは、お知らせやイベント情報、利用案内のほか、蔵書検索(OPAC)、国内外の各種学術情報や統計資料などを利用することができるデータベースや電子ジャーナルといった自学自習のための学習サポートコンテンツ、所蔵資料の予約、貸出・予約照会、図書の購入依頼など多様なサービスを提供しています。

また、福岡大学図書館収蔵の貴重なコレクションの一部をデジタル化しており、ウェブ上で閲覧することもできます。

平成25年2月には中央図書館の施設紹介や、利用方法等を動画でお楽しみいただける「バーチャルツアー」を公開しました。

図書館ウェブサイトは迷わずに求める情報へ到達できるレイアウトで利用者の皆さんをナビゲートします。ぜひご利用ください。



福岡大学図書館ウェブサイト

<http://www.lib.fukuoka-u.ac.jp/>

携帯電話、スマートフォンでもアクセスできます。またTwitterによるお知らせ情報の配信も行っています。

総合情報処理センター

<https://www.ipc.fukuoka-u.ac.jp/>

ICTを活用しながら新たな価値を創造できる
人材育成の環境の提供

総合情報処理センターでは、安全な通信環境と高機能な情報システムを構築し、ICT(情報通信技術)を活用しながら社会に貢献できる人材を育成する環境を提供しています。これらの教育環境はFUTURE(Fukuoka University Telecommunication Utilities for Research and Educationの略称)と呼ばれ、教育活動のみならず研究活動を支援する情報システムとして提供しています。高性能な情報システムを提供すると同時にFUTUREの活用を支援する体制や学内外の組織との連携体制を備えながら各種サービスを提供することで、ハードとソフトの両面が充実した教育環境を実現しています。

現在のFUTUREは4世代目の情報システムとして稼働し、FUTURE4という名称で提供しています。2015年秋には5世代目の情報システムFUTURE5として生まれ変わり、これまでに提供してきた機能やサービスをより一層強化することで、「多様化する教育・研究の支援」を目指すと同時に、「社会からの期待に応えることができる人材を育成するための環境」を目指します。その一例として、協働学習教室があげられます。本教室では、学生のコミュニケーション能力とICT活用力の向上を目指しつつ、教員がICTを活用しながら学習効果の高い授業を実施できる教育環境を学生や教職員に提供します。本教室で学ぶことで、他者と議論を交わしつつ、ICTを活用しながら自身のアイデアを育み実現に結びつけるという、実社会で不可欠な能力を身につける訓練も可能です。最終的には、「新たな価値を創造できる能力」を学生が備え、社会に貢献できる人材を育成する教育環境となることを目指します。

FUTUREの将来像
Future of FUTURE
新たな価値を創造できる
能力を育む教育環境

高機能な学習環境	教育用PC約1400台を提供	LMSによるオンライン教材の提供
	ノートPCやタブレットの提供	教育用Linuxサーバの提供
	協働学習を行う教室の提供	大判プリンタの提供
利用者支援体制の充実	ヘルプデスクの設置	ユーザーズガイドの発行と提供
	アシスタントスタッフの常駐	事務手続きのオンライン化
	システムエンジニアの常駐	各種講習会の開催
高性能なネットワーク	高速な学内LAN	多数の無線LANアクセスポイント
	不正通信の自動検知	ネットワーク認証・検疫による保護
	インターネット接続の二重化	VPNによる学外からのアクセス
ソフトウェア環境の充実	クラウドサービスの活用	アプリケーション配信システムの活用
	サイトライセンスの取得	ウイルス対策ソフトの無償配付
	100種以上のソフトウェアの提供	ソフトウェアの独自開発と提供

施設・建物

充実した施設が、学生の学問への前向きな気持ちと
快適な学生生活をサポートします。

学部・学科の整備と充実、教育システムの刷新等とともに、学生を受け入れる器としての施設の整備も大学の大きなテーマです。本学では、教室やスポーツ施設、研究施設のみならず、ラウンジやレストランなどの憩いと語らいの場や、また、合宿研修施設等も整備し、学生の学問への前向きな気持ちと快適な学生生活をサポートしています。

教育研究施設

文系センター棟



高層棟には文系学部の教員研究室、各学部長室、共同研究室、資料室、会議室、レストランなどが、また、1階には学生の集いの場であるプラザ50があります。低層棟には教務課、人文・法・経済の各学部事務室、共通教育センター、言語教育研究センター、入学センター、総合情報処理センター、研究推進部、国際会議室があります。

A棟



創立60周年記念事業として建設。地下2階・地上8階建て、延べ床面積12,050㎡。大小合わせて56教室、約5,500人を収容。ロビー・ラウンジなどパブリックスペースも十分に確保し、開放的で豊かな空間をつくっています。

2号館 (創立75周年記念商学部棟)



創立75周年記念事業の一環として建設。地下1階、地上9階建て。講義室、ゼミ室、情報処理教室の他、商学部教員の研究室、商学部事務室、会議室などがあります。



RIセンター



アニマルセンター

スポーツ施設・文化サークル施設等

陸上競技場

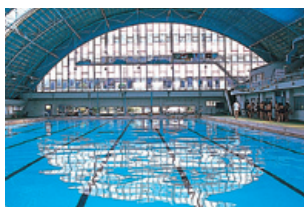


国内の大学ではトップクラスの競技場。トラックは全天候型で1周400mの8レーン。砲丸投げ、やり投げ、ハンマー投げ、円盤投げ、走り高跳び、三段跳び、棒高跳びの施設、写真判定室や夜間照明、1,036席の屋根付き観客席などを備えています。

野球場



平成25年12月竣工の福岡大学新野球場（福岡市西区）は、両翼100m、中堅122mで全面に人工芝が敷かれ、ロッカールームやシャワールーム、屋根付きのブルベンや観覧席（132席）も併設されています。



室内プール



ラグビー場

60周年記念館



愛称「ヘリオスプラザ」。地下1階・地上6階、延べ床面積7,057㎡を有する石と木と硝子の調和した美しい建物。書店（ヘリオス文庫）、情報プラザ、学生情報センター（ナジック）、ホール、音楽練習室、展示ギャラリーなどを備えた学生の憩いと語らいの場となっています。



学而会館



有朋会館



オリオンホール



第二記念会堂

研修・宿泊施設



セミナーハウス



やまなみ荘
（大分県玖珠郡九重町）

DATA [データ編]

教職員数	58
教員の年齢構成	58
学生数	59
入学試験状況	60
出身校所在県別入学状況	60
卒業生総数	61
博士の学位授与数	61
就職状況	62
大学院修了後の進路	65
海外協定校一覧	66
海外派遣学生数	67
外国人留学生数	68
外国籍教職員数	69
附属学校 教職員数・生徒数・卒業生数	69
留学生別科 学生数・修了者数	69
授業料等納入金	70
図書館蔵書数・利用状況	71
学外からの研究費受入額	71
校地・校舎の面積	71

平成27年度 学校法人福岡大学収支予算について

平成27年度事業活動収支予算	72
平成27年度資金収支予算	74

平成25年度 学校法人福岡大学収支決算について

平成25年度消費収支計算書	76
平成25年度資金収支計算書	78
貸借対照表	80

教職員数

平成 27 年 5 月 1 日現在
() は女性数 (内数)

▶教員数

部局	教授	准教授	講師	助教	助手	計
人文学部	86 (12)	33 (8)	8 (1)			127 (21)
法学部	23 (3)	9 (2)	4 (2)			36 (7)
経済学部	24 (4)	10 (1)	3			37 (5)
商学部	34	11 (2)	2 (2)	1		48 (4)
理学部	40	15	1	44 (4)	6 (5)	106 (9)
工学部	53 (1)	17	1	52 (9)	20 (4)	143 (14)
医学部	53 (7)	35 (14)	54 (14)	72 (22)	4 (3)	218 (60)
薬学部	22 (1)	15	8 (3)	36 (11)	5 (2)	86 (17)
スポーツ科学部	22	3 (1)	6 (1)	15 (1)	10 (6)	56 (9)
法科大学院	11 (2)	1			1	13 (2)
福岡大学病院	5	11 (2)	55 (6)	93 (21)	180 (58)	344 (87)
福岡大学筑紫病院	12	11	19 (1)	36 (8)	59 (18)	137 (27)
その他 (言語教育研究センター他)	6 (1)	10 (1)	31 (18)	2	1 (1)	50 (21)
合計	391 (31)	181 (31)	192 (48)	351 (76)	286 (97)	1,401 (283)

※ 出向 (部外修練) 中の大学院院助手を除く。助手には教育嘱託 6 人を含む。

▶職員数

部門	事務職員	教育技術職員	医療技術職員	看護職員	労務職員	計
福岡大学	460 (222)	97 (63)			21 (3)	578 (288)
福岡大学病院	91 (49)	1 (1)	266 (142)	1,004 (958)	75 (70)	1,437 (1,220)
福岡大学筑紫病院	56 (33)		98 (48)	364 (356)	7 (6)	525 (443)
合計	607 (304)	98 (64)	364 (190)	1,368 (1,314)	103 (79)	2,540 (1,951)
教職員数総計						3,941 (2,234)

教員の年齢構成

平成 27 年 5 月 1 日現在

年齢層	教授	准教授	講師	助教	助手	計
29 歳以下			1	29	101	131
30 歳～ 39 歳	1	32	58	185	154	430
40 歳～ 49 歳	59	75	95	115	14	358
50 歳～ 59 歳	144	53	30	19	8	254
60 歳～ 69 歳	185	21	8	3	9	226
70 歳以上	2					2
合計	391	181	192	351	286	1,401

学生数

平成 27 年 5 月 1 日現在
() は女子数 (内数)

▶学部

学部	入学定員	収容定員	在籍学生数
人文学部	540	2,160	2,430 (1,724)
法学部	600	2,400	2,769 (1,010)
経済学部	600	2,400	2,829 (816)
商学部	605	2,420	2,887 (1,268)
商学部第二部	165	660	759 (167)
理学部	240	960	1,063 (319)
工学部	640	2,560	2,985 (362)
医学部	210	1,060	1,115 (656)
薬学部	230	1,380	1,507 (1,049)
スポーツ科学部	280	1,120	1,267 (392)
合計	4,110	17,120	19,611 (7,763)

▶大学院

研究科	課程	入学定員	収容定員	在籍学生数	研究科 計		
					入学定員	収容定員	在籍学生数
人文科学研究科	M	51	102	85 (51)	72	165	113 (64)
	D	21	63	28 (13)			
法学研究科	M	12	24	18 (7)	15	36	21 (7)
	D	3	12	3 (0)			
経済学研究科	M	10	20	34 (19)	15	35	44 (23)
	D	5	15	10 (4)			
商学研究科	M	15	30	28 (15)	20	45	36 (20)
	D	5	15	8 (5)			
理学研究科	M	53	106	81 (16)	61	130	85 (18)
	D	8	24	4 (2)			
工学研究科	M	60	120	150 (19)	68	144	162 (20)
	D	8	24	12 (1)			
医学研究科	M	6	12	3 (2)	36	132	121 (39)
	D	30	120	118 (37)			
薬学研究科	M	5	10	3 (2)	11	34	20 (7)
	D	6	24	17 (5)			
スポーツ健康科学研究科	M	12	24	25 (9)	16	36	37 (13)
	D	4	12	12 (4)			
法曹実務研究科	P	20	70	24 (11)	20	70	24 (11)
修士課程・博士課程前期 (M) 計					224	448	427 (140)
博士課程後期・博士課程 (D) 計					90	309	212 (71)
専門職学位課程 (P) 計					20	70	24 (11)
合計					334	827	663 (222)
学生数総計					20,274		(7,985)

入学試験状況

平成 27 年 5 月 1 日現在

学部	学科	志願者数	入学者数
人文	文 化	957	101
	歴 史	894	65
	日 本 語 日 本 文	848	63
	教 育 ・ 臨 床 心 理	1,195	113
	英 語	1,237	91
	ド イ ツ 語	372	51
	フ ラ ン ス 語	529	47
	東アジア地域言語	507	65
計	6,539	596	
法	法 律	3,408	452
	経 営 法	1,675	228
	計	5,083	680
経済	経 済	4,454	468
	産 業 経 済	1,603	201
	計	6,057	669
商	商	2,703	251
	経 営	2,174	252
	貿 易	1,627	184
	計	6,504	687
商二	商	566	185
	計	566	185

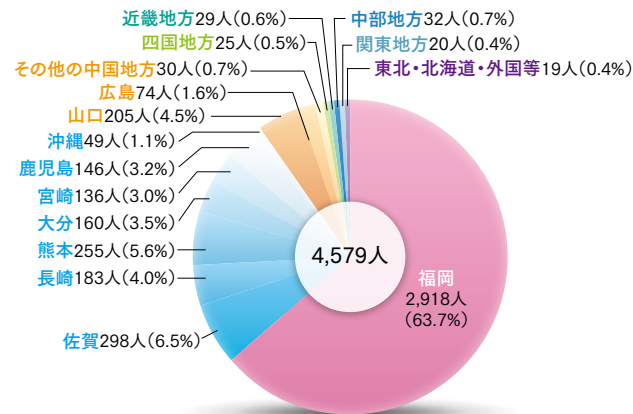
学部	学科	志願者数	入学者数
理	応 用 数	1,103	66
	物 理 科	638	64
	化	1,130	62
	地 球 圏 科	752	63
	計	3,623	255
工	機 械 工	1,558	110
	電 気 工	1,274	135
	電 子 情 報 工	2,153	152
	化学システム工	991	110
	社会デザイン工	1,239	106
建 築	建 築	1,594	108
	計	8,809	721
	医	3,886	110
看 護	看 護	1,470	110
	計	5,356	220
薬	薬	3,241	240
	計	3,241	240
スポーツ科	ス ポ ー ツ 科	1,191	248
	健 康 運 動 科	420	78
	計	1,611	326

総 計	志願者数 47,389	入学者数 4,579
-----	-------------	------------

※志願者数・入学者数は、一般入試、推薦入試、AO入試、センタープラス型入試、大学入試センター試験利用入試、社会人入試、帰国子女入試、学部留学生入試を含めた総数。

出身校所在県別入学状況

平成 27 年 5 月 1 日現在



卒業生総数

平成 27 年 3 月 31 日現在

▶学部

学 部	平成26年度	累計
人文学部	536	15,032
法学部	648	41,832
経済学部	646	44,424
商学部	583	50,554
商学部第二部	185	13,495
理学部	246	8,122
工学部	586	32,529
医学部	195	4,415
薬学部	204	10,275
スポーツ科学部 (含む旧体育学部)	293	10,222
合 計	4,122	230,900

▶専門学校等

	計
専攻科	60
専門学校	6,804
短期大学部	3,468

▶大学院

研究科	平成26年度			累計
	修士	博士	法務博士	
人文科学研究科	29	10	—	911
法学研究科	9	0	—	439
経済学研究科	16	3	—	737
商学研究科	23	4	—	685
理学研究科	35	2	—	1,165
工学研究科	65	1	—	1,596
医学研究科	9	24	—	712
薬学研究科	2	0	—	905
スポーツ健康科学研究科 (含む旧体育学研究科)	8	4	—	377
法曹実務研究科	—	—	7	145
合 計	196	48	7	7,672

※博士課程については、所定の年限以上在学し所定の単位を修得したが、博士の学位を取得しなかった者(満期退学者)を含む。

卒業生総数	248,904
-------	---------

博士の学位授与数

平成 27 年 3 月 31 日現在

	平成26年度	累計
課程博士	39	924
論文博士	16	651
法務博士(専門職)	7	145
合 計	62	1,720

就職状況

平成 26 年度

決定状況

平成 26 年度の就職状況は、アベノミクス効果で景気が回復に向かっていたことから、企業の大卒採用への意欲は高く、本学に寄せられた求人は 6,197 件（前年度比 340 件、5.8 ポイント増）、来学企業件数 1,304 件（前年度比 272 社、26.4 ポイント増）で 4 カ年連続増加となりました。

就職決定率は 94.2%（前年度比 1.7 ポイント増）でした。

- ①資本金別では、資本金 10 億円以上の企業への決定者が全体の 40.7% となっています。
- ②地域別では、九州地区企業への決定者が 53.5%（うち福岡県内企業への決定者は 41.4%）、関東地区に本社がある企業への決定者は 31.3% となっています。
- ③業種別では、建設業、製造業、卸売・小売業、金融・保険業、サービス業・教育への決定者が全体の 83.2% となっています。

平成 26 年度就職状況

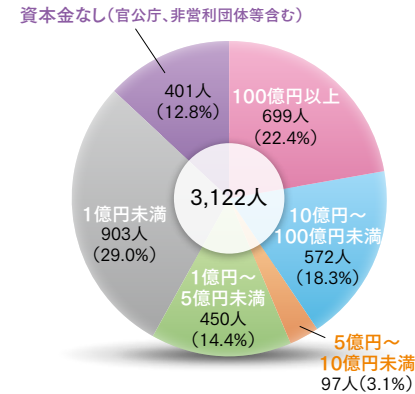
平成 27 年 3 月 31 日現在

学部	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	就職率 (%)
人文学部	536	425	399	93.9%
法学部	648	525	477	90.9%
経済学部	646	572	530	92.7%
商学部	583	482	458	95.0%
商学部第二部	185	137	111	81.0%
理学部	246	169	159	94.1%
工学部	586	489	474	96.9%
医学部看護学科	102	99	99	100.0%
薬学部	204	187	187	100.0%
スポーツ科学部	293	230	228	99.1%
合計	4,029	3,315	3,122	94.2%

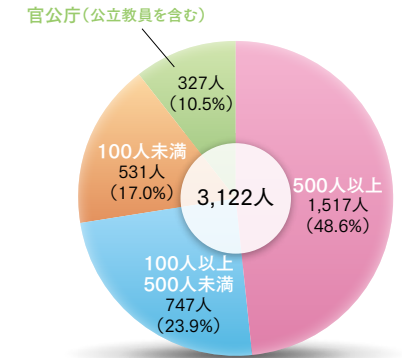
※就職率算出方法 = 就職決定者 / (就職決定者 + 民間企業希望未決定者)
就職希望者以外の者は、大学院進学者や資格取得希望者などです。

規模別就職状況

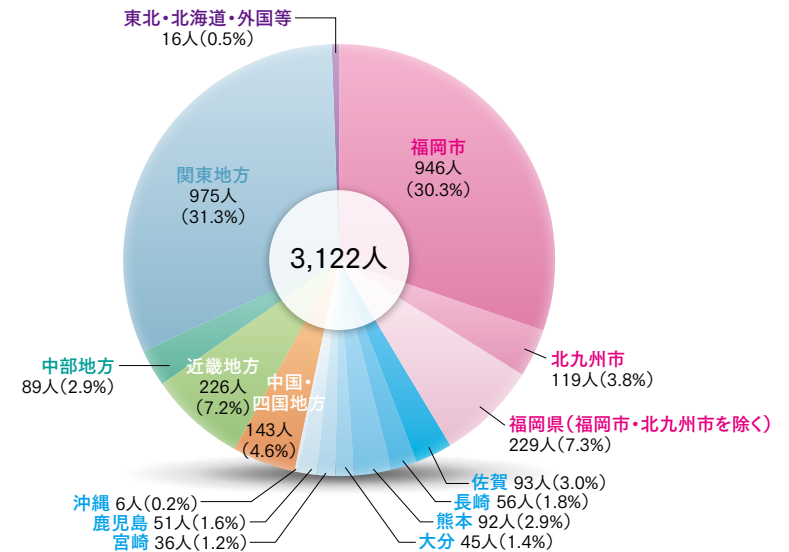
▶資本金別



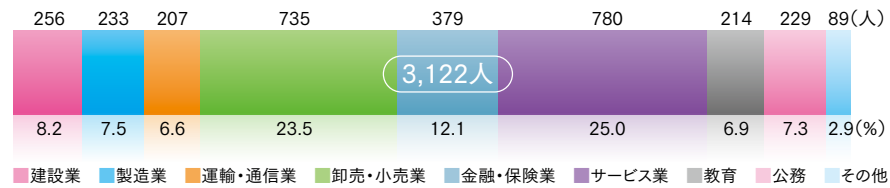
▶従業員別



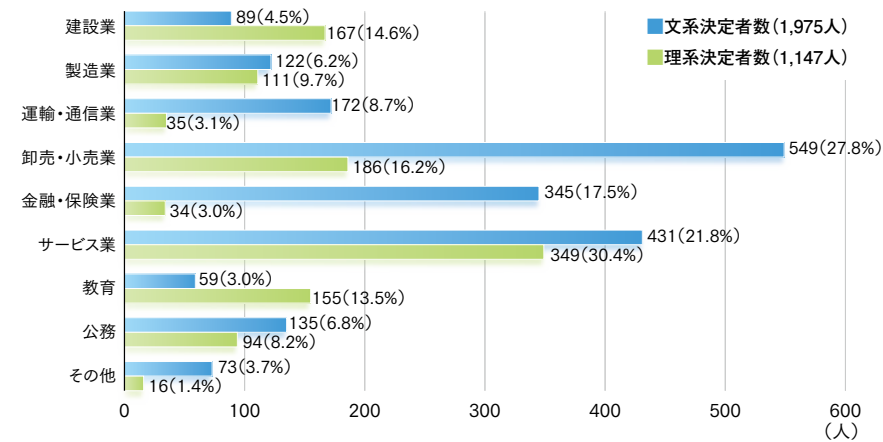
地域別就職状況



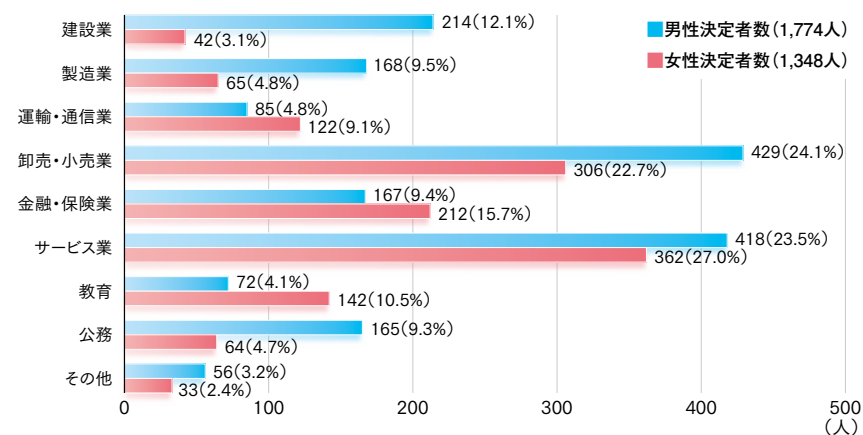
業種別就職状況



文系・理系別



男女別



大学院修了後の進路

平成 27 年 5 月 1 日現在

研究科	課程	進学	就職	その他	計	研究科 計			
						進学	就職	その他	計
人文科学研究科	M	5	9	15	29	5	12	22	39
	D	0	3	7	10				
法学研究科	M	1	5	3	9	1	5	3	9
	D	0	0	0	0				
経済学研究科	M	3	5	8	16	3	6	10	19
	D	0	1	2	3				
商学研究科	M	1	7	15	23	1	10	16	27
	D	0	3	1	4				
理学研究科	M	1	31	3	35	1	33	3	37
	D	0	2	0	2				
工学研究科	M	4	59	2	65	4	60	2	66
	D	0	1	0	1				
医学研究科	M	0	7	2	9	0	30	3	33
	D	0	23	1	24				
薬学研究科	M	0	2	0	2	0	2	0	2
	D	0	0	0	0				
スポーツ健康科学研究科	M	1	5	2	8	1	8	3	12
	D	0	3	1	4				
法曹実務研究科	P	0	0	7	7	0	0	7	7
修士課程・博士課程前期 (M) 計						16	130	50	196
博士課程後期・博士課程 (D) 計						0	36	12	48
専門職学位課程 (P) 計						0	0	7	7
合計						16	166	69	251

※Mは修士課程・博士課程前期、Dは博士課程後期・博士課程、Pは専門職学位課程

- ・博士課程後期の修了者については、所定の年限以上在学し所定の単位を修得したが、博士の学位を取得しなかった者（満期退学者）を含む。
- ・「その他」には、進学・就職準備中の者並びに公務員・教員採用試験および国家資格試験の準備中である者を含む。

海外協定校一覧

平成 27 年 5 月 1 日現在

19 カ国・地域 53 大学 1 機関

国・地域等	大学等	締結年月日	
アジア・オセアニア	韓国	蔚山大学校	1990.12.06
		釜山大学校	2000.12.04
		梨花女子大学校	2001.09.04
		東義大学校	2002.03.29
		高麗大学校	2002.10.25
		啓明大学校	2006.12.18
		仁川大学校	2010.05.27
		東亜大学校	2010.06.02
		東西大学校	2010.06.29
		慶熙大学校	2011.08.19
		釜慶大学校	2012.04.10
		東国大学校慶州キャンパス	2013.07.19
		国民大学校	2013.11.13
	中国	華東師範大学	2000.08.30
		中国政法大学	2001.07.09
		揚州大学	2002.01.21
		烟台大学	2002.08.01
		広州大学	2007.06.22
		中央财经大学	2008.11.21
		東北林業大学	2011.04.08
ハルビン師範大学		2011.04.25	
黒龍江大学		2011.09.28	
ハルビン理工大学		2012.09.07	
ハルビン商業大学		2012.09.08	
西安交通大学		2013.07.25	
西北大学		2013.09.23	
国家法官学院		2005.09.13	
台湾		輔仁大学	2001.05.30
		国立高雄大学	2012.04.01
フィリピン		ドゥ・ラ・サル大学	2002.08.09
インドネシア	ガジャマダ大学	2002.02.01	
	パジャジャラン大学	2012.10.26	
ベトナム	ハノイ大学	2013.08.29	
	ダナン大学	2013.10.22	
マレーシア	スルタン・イドリス教育大学	2010.05.17	
ネパール	トリブヴァン大学	2001.10.12	
オーストラリア	グリフィス大学	1991.11.28	

国・地域等	大学等	締結年月日	
ヨーロッパ	イギリス	ニューカッスル大学	1985.06.28
		リーズ大学	1990.12.11
		バース大学	2003.06.08
	フランス	パリ・ディドロ大学・パリ第7	2006.12.21
		リヨン政治学院	2012.11.20
		セルジー・ポントワーズ大学	2012.11.22
	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学	1997.06.25
		リエージュ大学	2013.07.01
	ドイツ	フリードリヒ・シラー大学イエナ	2009.06.25
	イタリア	パドヴァ大学	2002.07.24
	トルコ	パムッカレ大学	2009.08.10
	スペイン	ヴァレンシア大学	2011.02.22
フィンランド	タンペレ大学	2011.04.19	
南北アメリカ	アメリカ合衆国	ウオッシュュバン大学	1984.10.01
		カンザス大学	1988.01.09
		ジョージア工科大学	1995.07.31
	ブラジル	連邦立サンタ・カタリナ大学	2002.01.11

海外派遣学生数

平成 26 年度

▶国・地域別

国・地域	派遣期間		合計 (人)
	3月未満	3月-1年	
中国	16	2	18
韓国	115	15	130
台湾	20	2	22
香港	2		2
シンガポール	17		17
インドネシア	16		16
オーストラリア	27		27
ニュージーランド	37		37
イギリス	91		91
フランス		7	7
ドイツ	25	3	28
ベルギー	18		18
スペイン	4		4
カナダ	26		26
アメリカ合衆国	78		78
合計	492	29	521

▶学部別

学部 / 研究科	派遣期間		合計 (人)
	3月未満	3月-1年	
人文	133	27	160
法	72	1	73
経済	77		77
商	47	1	48
商二	4		4
理	57		57
工	37		37
医	28		28
薬	18		18
スポーツ科	19		19
合計	492	29	521

外国人留学生数

平成 27 年 5 月 1 日現在
() は女子数 (内数)

▶国・地域別

国・地域	学部留学生	大学院留学生			研究生	交換留学生	留学生別科生	合計
		修士課程・博士課程前期	博士課程後期・博士課程	専門職学位課程				
中国	75 (30)	58 (37)	16 [1] (9)		22 (15)	12 (10)	58 (44)	241 [1] (145)
韓国	13 (2)		1 [1] (1)			13 (7)	5 (1)	32 [1] (11)
台湾	2 (0)	1 (1)				4 (4)	1 (1)	8 (6)
香港	1 (0)							1 (0)
インドネシア	1 (0)				1 (1)	1 (1)		3 (2)
ベトナム					1 (0)		1 (1)	2 (1)
マレーシア	1 (0)							1 (0)
バングラデシュ		1 (1)						1 (1)
イギリス	1 (0)		1 (0)			2 (2)		4 (2)
フランス						4 (2)		4 (2)
ドイツ						1 (0)		1 (0)
ブルガリア						1 (0)		1 (0)
フィンランド						1 (1)		1 (1)
アメリカ合衆国			1 (1)					1 (1)
合計	94(32)	60(39)	19 [2] (11)	0	24(16)	39(27)	65(47)	301 [2] (172)

※・研究生には九州大学からの派遣学生 1 人を含む。・[] 内は国費留学生で内数。

▶学部・研究科別

学部・研究科	学部留学生	大学院留学生			研究生	交換留学生	留学生別科生	合計
		修士課程・博士課程前期	博士課程後期・博士課程	専門職学位課程				
人文	10 (6)	6 (6)			3 (3)	33 (24)		52 (39)
法	4 (4)	2 (1)				2 (2)		8 (7)
経済	12 (4)	29 (19)	8 [1] (4)		9 (6)			58 [1] (33)
商	52 (17)	14 (11)	6 [1] (5)		9 (6)	4 (1)		85 [1] (40)
理	1 (0)	1 (0)			1 (0)			3 (0)
工	14 (1)	8 (2)	1 (0)		1 (0)			24 (3)
医	1 (0)		4 (2)		1 (1)			6 (3)
薬								0 (0)
スポーツ科								0 (0)
専門職学位課程								0 (0)
留学生別科							65 (47)	65 (47)
合計	94(32)	60 (39)	19 [2] (11)	0	24(16)	39(27)	65(47)	301 [2] (172)

※・研究生には九州大学からの派遣学生 1 人を含む。・[] 内は国費留学生で内数。

外国籍教員数

平成 27 年 5 月 1 日現在

国・地域	教授	准教授	講師	助教	助手	計
中国	6	1	4	4		15
韓国	1		2	2		5
台湾			1			1
フィリピン			1			1
タイ				1		1
オーストラリア	1	1	3			5
ニュージーランド			1			1
イギリス	2	1	4			7
フランス	1					1
ドイツ		1	1			2
ベルギー	1					1
モルドバ	1					1
スペイン	1					1
アイルランド			1			1
アメリカ合衆国	2	2	2	1		7
カナダ		1				1
合計	16	7	20	8	0	51

附属学校

▶教職員数

平成 27 年 5 月 1 日現在

	教員	職員	計
附属大濠中学校・高等学校	125 (29)	23 (11)	148 (40)
附属若葉高等学校	61 (21)	14 (9)	75 (30)
合計	186 (50)	37 (20)	223 (70)

▶生徒数

平成 27 年 5 月 1 日現在

附属大濠中学校	485 (195)
附属大濠高等学校	1,951 (508)
附属若葉高等学校	1,128 (1,128)

※ () は女子数 (内数)

▶卒業生数

平成 27 年 3 月 31 日現在

	平成26年度	累計
附属大濠中学校	140	1,694
附属大濠高等学校	592	42,091
附属大濠中学校(旧制)	—	1,080
附属若葉高等学校 (含む旧九州女子高等学校)	302	48,478

留学生別科

▶学生数

平成 27 年 5 月 1 日現在

62 (44)

※ () は女子数 (内数)

▶修了者数

平成 27 年 3 月 31 日現在

平成26年度	累計
44	61

授業料等納入金

▶学部 (単位:円)

学部(学科)	入学金	毎年納付金			特別教育 充実費	
		授業料	教育充実費	計		
人文・法・経済・商	190,000	680,000	160,000	840,000	—	
商第二部	60,000	310,000	80,000	390,000	—	
理・工	240,000	930,000	350,000	1,280,000	—	
医(医)	初年度(1年次)	1,000,000	3,912,000	688,000	4,600,000	4,000,000
	2・3年次	—	3,912,000	688,000	4,600,000	2,500,000
	4年次以降	—	3,912,000	688,000	4,600,000	—
医(看護)	270,000	970,000	430,000	1,400,000	—	
薬	初年度(1年次)	400,000	1,310,000	280,000	1,590,000	—
	2年次以降	—	1,310,000	690,000	2,000,000	—
スポーツ科	300,000	740,000	320,000	1,060,000	—	

* 修業年限は4年。ただし、医学部医学科および薬学部は6年。

▶大学院修士課程・博士課程前期 (単位:円)

研究科(専攻)	入学金	毎年納付金		
		授業料	教育充実費	計
人文科学・法学・経済学・商学	200,000	470,000	120,000	590,000
理学・工学・薬学	240,000	630,000	140,000	770,000
医学(看護学)	240,000	470,000	140,000	610,000
スポーツ健康科学	240,000	570,000	130,000	700,000

* 標準修業年限は2年。
・ 本学の学部を卒業した者の入学金は半額免除。

▶大学院博士課程後期・博士課程 (単位:円)

研究科	入学金	毎年納付金		
		授業料	教育充実費	計
人文科学・法学・経済学・商学	200,000	400,000	120,000	520,000
理学・工学・医学・薬学	240,000	560,000	140,000	700,000
スポーツ健康科学	240,000	510,000	130,000	640,000

* 標準修業年限は3年。ただし、医学および薬学研究科は4年。
・ 本学の学部を卒業した者の入学金は半額免除、本学の修士課程・博士課程前期を修了した者の入学金は全額免除。

▶専門職学位課程(法科大学院) (単位:円)

研究科	入学金	毎年納付金		
		授業料	教育充実費	計
法曹実務	110,000	600,000	120,000	720,000

* 標準修業年限は3年(既修者コースは2年)。
・ 本学の学部を卒業した者および本学の大学院を修了した者の入学金は半額。

(注) 毎年納付金は入学時(2年次以降4月)と9月に半額ずつ分割納付。
・ 平成27年度入学生適用。
・ 他に学生健康保険互助組合費等の委託徴収金(初年度額:学部27,210円、大学院18,600円)を入学時(2年次以降4月)に併せて納入。
詳細は福岡大学会計課のウェブサイト (<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu807/gakuhi/>) をご覧ください。

図書館蔵書数・利用状況

平成26年度

▶蔵書数(冊)

和書	1,116,032
洋書	832,714
合計	1,948,746

▶雑誌数(種類)

和文誌	11,198
欧文誌	9,356
合計	20,554

▶学部学生貸出数(冊)

80,291

▶図書館入館者数(人)

965,769

学外からの研究費受入額

平成26年度

	受入件数	受入額(千円)
科研費	214	315,000
受託研究	102	417,949
研究助成寄附金	541	388,368
学外との共同研究	51	91,642
合計	908	1,212,959

校地・校舎の面積

平成27年4月1日現在

区分	所在地	校地面積(m ²)	校舎面積(m ²)
七隈校地	福岡市城南区七隈	592,511	401,771
筑紫野校地	筑紫野市俗明院	23,942	33,545
高宮校地	福岡市南区大楠	19,333	63
小戸校地	福岡市西区姪浜	984	299
六本松校地	福岡市中央区六本松	7,616	2,344
久住校地	大分県竹田市久住町白丹	2,000	486
九重校地	大分県九重町田野	49,344	5,075
女原校地	福岡市西区女原	(土地区画整理中)	587
北九州校地	北九州市若松区向洋町	6,565	1,386
〃	北九州市若松区ひびきの	—	246
大牟田校地	大牟田市健老町	—	53
糸島校地	糸島市東	—	127
渡辺通校地	福岡市中央区渡辺通	—	18
合計		702,295	446,000

平成27年度 学校法人福岡大学収支予算について

《平成27年度予算の重点施策》

1. 教育体制の整備・充実
2. 研究・情報体制の整備・充実
3. 医療・健康体制の整備・充実
4. 社会貢献の整備・充実
5. 経営基盤の強化

《平成27年度予算の特徴》

1. 教育関係：「FUTURE 5（福岡大学教育研究システム）の導入」「グローバル人材育成推進事業」
2. 研究関係：「基盤研究機関研究所」「産学官連携研究機関研究所」
3. メディカル部門：福岡大学病院「第IV期統合医療情報システム」
4. 施設関係：「福岡大学体育館施設（仮称）新築工事」「8号館・9号館・11号館耐震改修工事」「ラグビー場西側グラウンド整備工事」など

平成27年度事業活動収支予算

(予算規模 741 億円)

(単位：千円)

科目	27年度予算額	26年度予算額	差異
1 学生生徒等納付金	26,620,158	26,604,603	15,555
2 手数料	1,393,797	1,276,201	117,596
3 寄付金	849,369	855,274	△ 5,905
4 経常費等補助金	5,314,027	4,974,257	339,770
5 付随事業収入	999,135	983,098	16,037
6 医療収入	36,251,206	36,824,318	△ 573,112
7 雑収入	1,705,157	1,524,453	180,704
8 教育活動収入計	73,132,849	73,042,204	90,645
9 人件費	39,635,685	39,327,721	307,964
10 (うち退職給与引当金繰入額)	(2,711,816)	(2,437,178)	(274,638)
11 教育研究経費	30,919,276	30,289,024	630,252
12 (うち減価償却額)	(6,182,729)	(6,021,767)	(160,962)
13 管理経費	3,020,371	3,086,748	△ 66,377
14 (うち減価償却額)	(384,990)	(415,721)	(△ 30,731)
15 教育活動支出計	73,575,332	72,703,493	871,839
16 教育活動収支差額 (8-15)	△ 442,483	338,711	△ 781,194
17 受取利息・配当金	563,285	453,668	109,617
18 その他の教育活動外収入	0	0	0
19 教育活動外収入計	563,285	453,668	109,617
20 借入金等利息	176,201	197,574	△ 21,373
21 その他の教育活動外支出	0	0	0
22 教育活動外支出計	176,201	197,574	△ 21,373
23 教育活動外収支差額 (19-22)	387,084	256,094	130,990
24 経常収支差額 (16+23)	△ 55,399	594,805	△ 650,204
25 資産売却差額	0	0	0
26 その他の特別収入	443,301	349,189	94,112
27 特別収入計	443,301	349,189	94,112
28 資産処分差額	0	0	0
29 その他の特別支出	0	0	0
30 特別支出計	0	0	0
31 特別収支差額 (27-30)	443,301	349,189	94,112
32 [予備費]	337,311	436,770	△ 99,459
33 基本金組入前当年度収支差額(24+31-32)	50,591	507,224	△ 456,633
34 基本金組入額合計	△ 6,806,037	△ 4,072,098	△ 2,733,939
35 当年度収支差額 (33+34)	△ 6,755,446	△ 3,564,874	△ 3,190,572
36 前年度繰越収支差額	△ 17,362,232	△ 17,286,407	△ 75,825
37 翌年度繰越収支差額 (35+36)	△ 24,117,678	△ 20,851,281	△ 3,266,397
38 事業活動収入計 (8+19+27)	74,139,435	73,845,061	294,374
39 事業活動支出計 (15+22+30+32)	74,088,844	73,337,837	751,007

経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支を見ることができ、27年度は4億4,248万円の支出超過となる見込み。26年度より医療収入が5億7,311万円減少、教育研究経費が6億3,025万円増加。

経常的な収支バランスを見ることができ、27年度は5,539万円の支出超過となる見込み。

資産売却や施設・設備関係の補助金等の臨時的な収支を見ることができ、27年度は4億4,330万円の収入超過となる見込み。

良質な教育・研究・医療環境を維持するための施設・設備等の額である。26年度より施設関係支出と設備関係支出が増加。

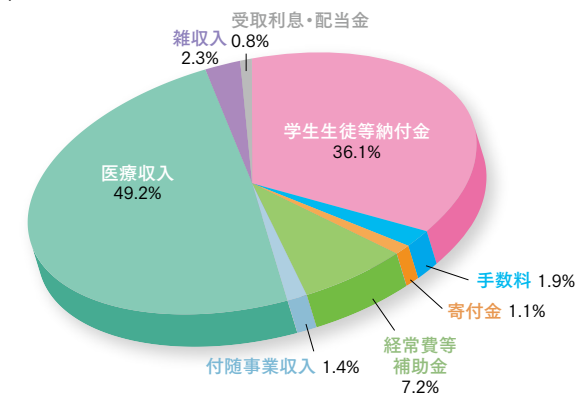
経常的な収支のうち、財務活動の収支を見ることができ、27年度は3億8,708万円の収入超過となる見込み。26年度より受取利息・配当金が1億961万円増加。

毎年度の収支バランスを見ることができ、従来の帰属収支差額である。27年度は5,059万円の収入超過となる見込み。

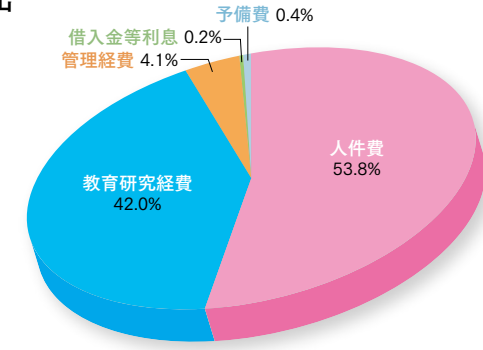
基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除したものの、27年度は6億7,544万円の支出超過となる見込み。

経常収入に対する比率

▶ 経常収入



▶ 経常支出



事業活動収支予算の概要

※学校法人会計基準の改正に伴い、消費収支予算から事業活動収支予算に変更となっています。

- ・ 従来の帰属収支差額に相当する基本金組入前当年度収支差額（事業活動収入－事業活動支出）は、5,059万円の収入超過を見込んでおり、従来の帰属収支差額比率に相当する事業活動収支差額比率は、0.1%となっています。
- ・ 人件費比率（人件費÷経常収入）は、53.8%となり、前年度予算より0.3ポイント高くなっています。

平成27年度資金収支予算

(予算規模 1,079 億円)

《収入の3本柱》

学生生徒等が納める授業料や入学金などのこと。聴講料や補講料も含まれます。

国や地方公共団体などからの助成金です。

福岡大学病院、筑紫病院の医療収入です。

・長期、短期の貸付金の回収額
・税金等の預り金受入額
・特定の目的のために積み立てた資産を取崩した場合の収入額

(単位：千円)

収入の部			
科目	27年度予算額	26年度予算額	差異
学生生徒等納付金収入	26,620,158	26,604,603	15,555
手数料収入	1,393,797	1,276,201	117,596
寄付金収入	849,369	885,274	△ 35,905
補助金収入	5,757,328	5,293,446	463,882
付随事業・収益事業収入	999,135	983,098	16,037
医療収入	36,251,206	36,824,318	△ 573,112
受取利息・配当金収入	563,285	453,668	109,617
雑収入	1,705,157	1,524,453	180,704
前受金収入	5,164,930	5,328,751	△ 163,821
その他の収入	26,015,741	21,843,353	4,172,388
資金収入調整勘定	△ 12,919,594	△ 12,670,878	△ 248,716
収入計	92,400,512	88,346,287	4,054,225
前年度繰越支払資金	15,489,603	17,738,710	△ 2,249,107
収入の部合計	107,890,115	106,084,997	1,805,118

翌年度に入学予定の学生生徒等から受け入れる授業料や入学金などです。

収入として計上したが未収となっているものや、前受金収入として前年度までに既に受け入れている収入を差し引くことにより、資金の収入額を調整するためのものです。

(単位：千円)

教職員に支払われる給与などのことです。

土地、建物、構築物などを取得するための支出です。

より良い教育研究サービスを提供するために資産を積み立てるための支出などです。

支出の部			
科目	27年度予算額	26年度予算額	差異
人件費支出	39,366,644	39,092,849	273,795
教育研究経費支出	24,736,547	24,228,517	508,030
管理経費支出	2,635,381	2,671,027	△ 35,646
借入金等利息支出	176,201	197,574	△ 21,373
借入金等返済支出	568,230	533,270	34,960
施設関係支出	2,229,000	1,445,505	783,495
設備関係支出	5,152,270	2,789,414	2,362,856
資産運用支出	5,147,111	6,379,178	△ 1,232,067
その他の支出	17,576,343	16,170,047	1,406,296
予備費	340,000	440,000	△ 100,000
資金支出調整勘定	△ 5,171,833	△ 5,671,768	499,935
支出計	92,755,894	88,275,613	4,480,281
翌年度繰越支払資金	15,134,221	17,809,384	△ 2,675,163
支出の部合計	107,890,115	106,084,997	1,805,118

学生生徒等の教育・研究・医療のために支出する経費です。

総務、人事、財務、経理等の業務に要する経費、教職員の福利厚生のための経費などです。

教育研究用の機器備品、管理用の機器備品、図書などを取得するための支出です。

支出として計上したが未払となっているものや、前払金支払支出として前年度までに支払っている経費を差し引くことにより、資金の支出額を調整するためのものです。

資金収支予算の概要

注 ↑…増加を示す ↓…減少を示す

《収入の部》

補助金収入 ↑

私学事業団から交付される経常費補助金の増加、8号館・9号館・11号館の耐震化に係る補助金受入。

医療収入 ↓

福岡大学病院における入院患者数、筑紫病院における入院診療単価の減少。

その他の収入 ↑

各種特定資産からの取崩収入の増加、税金等の預り金の増加。

《支出の部》

教育研究経費支出 ↑

FUTURE 5導入に伴う消耗品およびシステム構築費用の増加。

施設関係支出 ↑

福岡大学体育館施設（仮称）新築工事・耐震改修工事のため。

設備関係支出 ↑

FUTURE 5関係の機器備品購入、福岡大学病院の第IV期統合医療情報システム購入。

資産運用支出 ↓

各種特定資産への繰入支出の減少。

その他の支出 ↑

税金等の預り金の増加。

〔資金収支規模と翌年度繰越支払資金〕

- ・資金収支予算の合計は1,078億9,011万円、前年度予算より18億511万円の増加となっています。
- ・資金収支のてん末としての翌年度繰越支払資金は151億3,422万円、前年度予算より26億7,516万円の減少となっています。

【学校法人会計の豆知識】

- ・平成27年度から学校法人会計基準が改正され、資金収支計算書では勘定科目等の見直しが行われています。また、従来の消費収支計算書は名称が事業活動収支計算書となり、内容が大幅に変更されています。
- ・学校法人は営利の追求を目的とする一般企業とは異なり、教育研究活動を目的とする公共性の高い法人です。

1. 資金収支計算書

- ① 企業会計の「キャッシュフロー計算書」に似た性格を持つ計算書です。
- ② 家庭でいえば家計簿のように現金預金の出入りを集計した計算書です。

2. 事業活動収支計算書

- ① 企業会計の「損益計算書」に似た性格を持つ計算書であり、採算の取れた経営を行っているか、経営上赤字になっていないかを見る計算書です。
- ② 企業会計の「損益計算書」では計上対象とならない資本的支出が基本金組入額として計上されています。

※本学公式ウェブサイトの情報公表・財務状況 (<http://www.fukuoka-u.ac.jp/disclosure/finance/>) では、詳細な予算情報を公開していますのでご覧ください。

平成26年度 学校法人福岡大学収支決算について

- 消費収支においては、9億2,288万円の消費収入超過となりました。
- 基本金組入額を20億6,300万円計上しました。

平成26年度消費収支計算書

(決算規模 742億円)

《収入の3本柱》

学生生徒等が納める授業料や入学金等のこと。聴講料や補講料も含まれます。収入(帰属収入)の35.5%を占めます。

国や地方公共団体等からの助成金です。収入(帰属収入)の7.2%を占めます。

福岡大学病院や筑紫病院の医療収入です。収入(帰属収入)の47.8%を占めます。

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	26,604,603	26,385,182	219,421
手数料	1,276,201	1,365,793	△ 89,592
寄付金	885,274	1,043,639	△ 158,365
補助金	5,293,446	5,336,199	△ 42,753
資産運用収入	560,636	806,739	△ 246,103
資産売却差額	0	980,573	△ 980,573
事業収入	983,098	1,167,708	△ 184,610
医療収入	36,824,318	35,456,980	1,367,338
雑収入	1,417,485	1,690,813	△ 273,328
帰属収入合計	73,845,061	74,233,626	△ 388,565
基本金組入額合計	△ 4,072,098	△ 2,063,004	△ 2,009,094
消費収入の部合計	69,772,963	72,170,622	△ 2,397,659

学校法人福岡大学が提供した教育・研究・医療等の対価として受け取る収入で、負債とならない収入です。

良好な教育環境を維持するための施設・設備等の額であり、帰属収入から差し引く金額です。

《消費支出の部》

教職員に支払われる給与等のことです。収入(帰属収入)の51.7%に相当します。

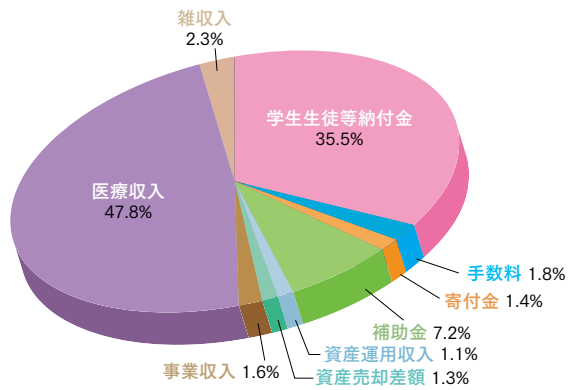
消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	39,327,721	38,384,650	943,071
(退職給与引当金繰入額)	(2,437,178)	(2,174,955)	(262,223)
教育研究経費	30,402,181	29,502,596	899,585
(減価償却額)	(6,021,767)	(5,900,715)	(121,052)
管理経費	3,148,243	3,048,544	99,699
(減価償却額)	(415,721)	(403,067)	(12,654)
借入金等利息	197,574	190,635	6,939
資産処分差額	0	113,430	△ 113,430
徴収不能引当金繰入額	0	7,884	△ 7,884
	(174,652)		
[予備費]	262,118		262,118
消費支出の部合計	73,337,837	71,247,739	2,090,098
当年度消費収入超過額	0	922,883	
当年度消費支出超過額	3,564,874	0	
前年度繰越消費支出超過額	17,286,407	14,834,036	
基本金取崩額	0	11,235	
翌年度繰越消費支出超過額	20,851,281	13,899,918	
帰属収支差額	507,224	2,985,887	△ 2,478,663

総務、人事、財務、経理等の業務に要する経費、教職員の福利厚生のための経費等です。

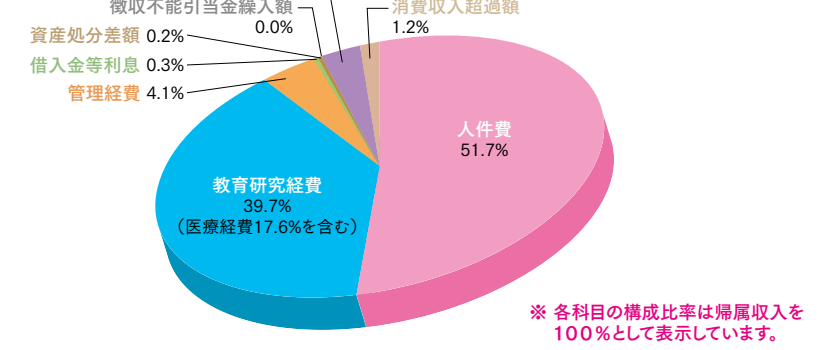
学校法人福岡大学が使ったお金および用役に対して支出した金額の合計です。収入(帰属収入)の96.0%に相当します。

(注) [予備費] は未使用額を表し、() 内の金額は使用額を示す。

▶ 帰属収入



▶ 消費支出他



消費収支決算の概要(予算との比較)

《消費収入の部》

- 資産売却差額** ↑ 有価証券の償還差益。
- 医療収入** ↓ 福岡大学病院における入院および外来患者数の減少。◎帰属収入合計は742億3,362万円となり、予算比で3億8,856万円の増加、また前年比では16億166万円の増加となりました。

《消費支出の部》

- 人件費** ↓ 教職員数の差異等による減少。
- 教育研究経費** ↓ 施設関係の修繕費減少による。◎消費支出の部合計は712億4,773万円となり、予算比で20億9,009万円の減少、また前年比では9億4,577万円の減少となりました。

【消費収入と消費支出】
 帰属収入から基本金組入額を差し引いた721億7,062万円が消費収入です。この額が消費支出に充てることのできる金額となりますが、平成26年度は712億4,773万円の消費支出となり、消費収入と比較すると9億2,288万円の消費収入超過となりました。

【帰属収支差額】
 帰属収入から消費支出を差し引いたものを帰属収支差額といいます。平成26年度は29億8,588万円の帰属収入超過となりました。

【帰属収支差額比率】
 帰属収支差額の帰属収入に対する割合であり、この比率が高いほど自己資金は充実にことになり、経営に余裕があるとみなすことができます。平成26年度は4.0%であり、前年度より3.4ポイント高くなっています。

平成26年度資金収支計算書

(決算規模 1,192 億円)

(単位：千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	26,604,603	26,385,182	219,421
手数料収入	1,276,201	1,365,793	△ 89,592
寄付金収入	885,274	897,259	△ 11,985
補助金収入	5,293,446	5,336,199	△ 42,753
資産運用収入	560,636	806,739	△ 246,103
資産売却収入	0	11,141,875	△ 11,141,875
事業収入	983,098	1,167,708	△ 184,610
医療収入	36,824,318	35,456,980	1,367,338
雑収入	1,417,485	1,548,611	△ 131,126
前受金収入	5,328,751	5,451,632	△ 122,881
その他の収入	21,843,353	24,861,522	△ 3,018,169
資金収入調整勘定	△ 12,670,878	△ 12,911,366	240,488
前年度繰越支払資金	17,738,710	17,695,348	43,362
収入の部合計	106,084,997	119,203,482	△ 13,118,485

期中の有価証券等の売却収入であり、購入については資産運用支出として計上しています。

長期、短期の貸付金の回収額や特定の目的のために積み立てた資産を取り崩した金額等です。

次年度に入学予定の学生生徒等から受け入れる授業料や入学金等です。

収入として計上したが未収となっているものや、前受金収入として前年度までに既に受け入れている収入を差し引くことにより、資金の収入額を調整するためのものです。

(単位：千円)

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	39,092,849	38,199,395	893,454
教育研究経費支出	24,341,674	23,613,555	728,119
管理経費支出	2,732,522	2,627,203	105,319
借入金等利息支出	197,574	190,635	6,939
借入金等返済支出	533,270	533,270	0
施設関係支出	1,445,505	1,153,064	292,441
設備関係支出	2,789,414	1,968,560	820,854
資産運用支出	6,379,178	21,303,464	△ 14,924,286
その他の支出	16,170,047	19,374,459	△ 3,204,412
	(174,652)		
[予備費]	265,348		265,348
資金支出調整勘定	△ 5,671,768	△ 5,324,374	△ 347,394
次年度繰越支払資金	17,809,384	15,564,251	2,245,133
支出の部合計	106,084,997	119,203,482	△ 13,118,485

土地、建物、構築物等を取得するための支出です。

より良い教育研究サービスを提供するために、資金を積み立てるための支出等です。

教育研究用の機器備品、その他の機器備品、図書等を取得するための支出です。

支出として計上したが未払となっているものや、前払金支払支出として前年度までに支払っている経費を差し引くことにより、資金の支出額を調整するためのものです。

(注) [予備費] は未使用額を表し、() 内の金額は使用額を示す。

資金収支決算の概要(予算との比較)

注 ↑…増加を示す ↓…減少を示す

《収入の部》

- 資産売却収入** ↑
有価証券の満期および早期償還による。
- 医療収入** ↓
福岡大学病院における入院および外来患者数の減少。
- その他の収入** ↑
税金等の預り金の増加。

《支出の部》

- 人件費支出** ↓
教職員数の差異等による減少。
- 教育研究経費支出** ↓
施設関係の修繕費減少による。
- 設備関係支出** ↓
教育研究用機器備品支出の未執行による。
- 資産運用支出** ↑
有価証券の購入および各種特定資産への繰り入れによる。
- その他の支出** ↑
税金等の預り金の増加。

【資金収支規模と次年度繰越支払資金】

- ・資金収支決算の合計は1,192億348万円で、前年比5億5,688万円の財政規模拡大となっています。
- ・資金収支のてん末としての次年度繰越支払資金は、155億6,425万円で、前年比21億3,109万円の減少となりました。

【平成26年度に取得した主な施設・設備】

施設・設備の名称および内容

〈施設関係〉(土地・建物・構築物・建設仮勘定)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. やまなみ荘改修工事 | 5. 福岡大学病院西別館1、2階 |
| 2. 文系センター棟西側エレベーター取替工事 | 機械室空調機取替工事 |
| 3. ラグビー場西側グラウンド整備工事 | 6. 筑紫病院駐車場棟 |
| 4. 福岡大学病院西別館屋上非常用発電機取替工事 | 7. 筑紫病院外構工事 |

〈設備関係〉(機械器具)

1. 医用画像管理システムおよび内視鏡管理システム
2. 全身用X線CT診断装置(第三CT)
3. 血管撮影機能付外科用X線撮影装置

貸借対照表

(決算規模 2,348 億円)

(単位：千円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	210,713,961	206,936,054	3,777,907
有形固定資産	123,836,999	126,881,184	△ 3,044,185
土地	20,263,515	20,266,869	△ 3,354
建築物	70,254,508	72,024,635	△ 1,770,127
構築物	4,583,319	4,576,449	6,870
教育研究用機器備品	12,491,325	13,531,455	△ 1,040,130
その他の機器備品	215,242	244,789	△ 29,547
図書	15,964,026	15,742,167	221,859
車輛	14,834	15,903	△ 1,069
建設仮勘定	50,230	478,917	△ 428,687
その他の固定資産	86,876,962	80,054,870	6,822,092
電話加入権等	210,866	217,648	△ 6,782
収益事業元入金	817,935	805,540	12,395
貸付金	20,568	166,256	△ 145,688
貸与奨学金	3,385,155	3,766,378	△ 381,223
差入保証金	50,979	50,914	65
長期前払金	276	0	276
引当特定資産	82,391,183	75,048,134	7,343,049
流動資産	24,091,356	25,945,301	△ 1,853,945
現金預金	15,564,251	17,695,348	△ 2,131,097
未収入金	7,799,172	7,499,139	300,033
材料	147,075	133,996	13,079
貯蔵品	6,285	14,031	△ 7,746
立替金	2,782	4,185	△ 1,403
短期前払金	532,859	573,562	△ 40,703
仮払金	38,932	25,040	13,892
資産の部合計	234,805,317	232,881,355	1,923,962

校舎、寮、体育館等の建物および建物附属設備（空調等）の額のことです。

教育研究のために使用される機械設備等の額のことです。

学生生徒等に貸与している奨学金の額のことです。

将来の特定の目的のために使用する資産のことです。

現金およびすぐに引き出すことのできる預貯金の額のことです。

決算日（3月31日）における補助金等の未収額の額のことです。

(単位：千円)

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	27,269,360	27,681,730	△ 412,370
長期借入金	8,258,700	8,826,930	△ 568,230
長期未払金	579,689	609,085	△ 29,396
退職給与引当金	18,430,971	18,245,715	185,256
流動負債	12,027,858	12,677,413	△ 649,555
短期借入金	568,230	533,270	34,960
短期未払金	4,795,374	5,401,281	△ 605,907
前受金	5,451,632	5,556,751	△ 105,119
預り金	1,212,342	1,185,913	26,429
仮受金	280	198	82
負債の部合計	39,297,218	40,359,143	△ 1,061,925
基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	186,627,775	184,337,771	2,290,004
第2号基本金	15,317,363	15,734,598	△ 417,235
第3号基本金	2,353,879	2,353,879	0
第4号基本金	5,109,000	4,930,000	179,000
基本金の部合計	209,408,017	207,356,248	2,051,769
第1号（施設・設備取得）	自己資金で購入した施設設備費の累計額。		
第2号（計画組入）	将来の施設設備取得のための積立金。		
第3号（各種基金）	奨学金等として保持している金額。		
第4号（運転資金）	恒常的に保持すべき資金の額（1カ月分の運転資金）。		
消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	13,899,918	14,834,036	△ 934,118
消費収支差額の部合計	△ 13,899,918	△ 14,834,036	934,118
科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計	234,805,317	232,881,355	1,923,962

返済期限が1年を超えて到来する借入金のことです。

26年度末に教職員全員が退職した場合に支払われる退職金の見積額のことです。

返済期限が1年以内に到来する借入金のことです。

翌年度に入学する学生生徒等から受け入れた授業料や入学金等の額のことです。

財産的な基盤となる額のことです。福岡大学が安定的かつ永続的に存続していくために必要な金額です。

資産から負債と基本金を差し引いた額です。プラスは収入超過（累積黒字）を、マイナスは支出超過（累積赤字）を表します。

貸借対照表の概要 (前年度末との比較)

注 ↑…増加を示す ↓…減少を示す

資産の部

資産総額は19億2,396万円の増加。
 ●純資産(資産総額から負債総額を差し引いたもの)は、1,955億809万円で、29億8,588万円の増加。
 ●資産総額に占める純資産(自己資金)の割合は83.3%で、0.6ポイント増加。

負債の部

負債総額は10億6,192万円の減少。
 ●長期借入金 ↓
 借入金の返済のため。
 ●短期末払金 ↓
 設備関係支出の未払の減少。

基本金の部

基本金総額は20億5,176万円の増加。
 ●第1号基本金 ↑
 筑紫病院駐車場棟、やまなみ荘改修工事、全身用X線CT診断装置(第三CT)の購入等に係る組入れによる。
 ●第2号基本金 ↓
 第1号基本金への振替による。

消費収支差額の部

翌年度繰越消費支出超過額を138億9,991万円計上。

【学校法人福岡大学監事からの報告および要望】

1. 入学志願者と就職率について
 特に入学志願者を確保するために多様な施策を実行し、また、新しいチャネルを活用した情報発信を積極的に実行することが要望されています。
2. 財政状況について
 戦略的な投資計画の策定と併せて、具体的な増収策と効果的な経費削減策が要望されています。
3. 福岡大学病院と筑紫病院の業績推移について
 本学の健全で持続的な発展には、きめ細かな収益改善策による両病院の収益性向上が必要であると要望されています。

「当大学の健全で持続的な成長」を実現するため、「ガバナンス体制」および「コンプライアンス経営」を経営の「車の両輪」として、PDCA(Plan・Do・Check・Action)サイクルをスピード感をもって、不断に、かつ、効果的に機能させていくことを重ねて要望されています。

【福岡大学の財政状態】

貸借対照表 (構成比)

資産の部		負債の部、基本金の部、消費収支差額の部	
固定資産 89.7	有形固定資産 52.7	借入金等 6.6	負債 16.7
		退職給与引当金 7.8	
		前受金 2.3	
	第1号 79.5	基本金 89.2	
流動資産 10.3	その他の固定資産 37.0	第2号 6.5	消費収支差額 △5.9
		第3号 1.0	
		第4号 2.2	
		消費収支差額 △5.9	

※資産=負債+基本金+消費収支差額

※平成 27 年 3 月 31 日現在の財政状態を分かりやすく見るために、それぞれを構成比で表しました。

《 福岡大学の財政状態を 》
 《 次の2つの視点から評価 》

Q1. 現有資産が自己資金によるものなのか負債によるものなのか。

A1. 自己資金(基本金+消費収支差額)の構成を指数化すると83.3です。
 この指数は高いほど財政的に安定していると言われています。(評価◎)

Q2. 必要な資産を現時点で保有しているのかいないのか。

A2. 消費収支差額はマイナスであるが、基本金の保有は良好で、将来の施設設備取得に備えての資金も6.5(第2号)含まれています。(評価◎)

※日本私立学校振興・共済事業団発行の「今日の私学財政」を基に、医歯他複数学部大学法人平均との比較で評価を行いました。
 医歯他複数学部大学法人平均と比較して、財政状態が良い場合は◎、同程度の場合は△、悪い場合は×と表記しています。

【学校法人会計の豆知識】

- ・学校法人は営利の追求を目的とする一般企業とは異なり、教育研究活動を目的とする公共性の高い法人です。
- ・学校法人が作成する計算書類は、主として以下の3つです。

1. 資金収支計算書

- ① 企業会計の「キャッシュフロー計算書」に似た性格を持つ計算書です。
- ② 家庭でいえば家計簿のように現金預金の出入りを集計した計算書です。

2. 消費収支計算書

- ① 企業会計の「損益計算書」に似た性格を持つ計算書であり、採算の取れた経営を行っているか、経営上赤字になっていないかを見る計算書です。
- ② 企業会計の「損益計算書」では計上対象とならない資本的支出が基本金組入額として計上されています。

3. 貸借対照表

- ① 年度末における資産・負債・自己資金(基本金、消費収支差額)を表します。
- ② 財政状態の健全性、必要資産の保有状況、今までの学校法人の活動を行ってきた積み重ねの結果を表します。

※本学公式ウェブサイトの情報公表・財務状況(<http://www.fukuoka-u.ac.jp/disclosure/finance/>)では、詳細な決算情報を公開していますのでご覧ください。

》福岡大学公式ウェブサイト

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/>

福岡大学公式ウェブサイトでは、ステークホルダーに向けて、日々最新情報を発信しています。サイトには新着情報収集機能(RSS)を備えており、発信情報をリアルタイムで確認することができます。スマートフォンにも対応しています。

》情報公表

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/disclosure/>

本学は「建学の精神」と「教育研究の理念」に基づいた全人教育を通して、自発的で創造性豊かな人材を育成し、国や地方自治体の発展に寄与することを目的としています。

この目標を達成するためには、社会からの適切な評価に基づく改善活動を通じ、絶えず教育・研究・医療の水準を向上させていくことが重要です。

本学は従来から情報の公表に努めてまいりましたが、本学の実態をより一層ご理解いただくため、教育・研究や組織運営、財務情報などからなる教育情報を公表しています。

本学は、教育情報の公表により自己分析を進めるとともに、頂いたご意見を基に、更なる教育・研究・医療の充実に取り組みます。

情報公表の詳細は福岡大学公式ウェブサイトをご覧ください。



公表項目

教育研究上の目的	基本組織
学生数等	教職員情報
授業計画と成績評価	カリキュラムと卒業・修了認定
学則	学費
教育研究環境	学生支援
財務状況	事業計画・事業報告
設置認可	外部評価
格付け	国際
	地域
	産学官連携

》広報誌

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/aboutus/prmagazine/>

福岡大学広報課では各種広報誌を発行しています。発行した広報誌はデジタル形式でも掲載しています。詳細は福岡大学公式ウェブサイト広報誌コーナーをご覧ください。



大学案内

受験生およびその保護者、さらに高校教員等を対象にした広報誌です。大学の概要や卒業生・在学生の活躍、入試情報等を掲載し、年に1回発行しています。

(A4判約230ページ)



学園通信

大学の現況や学生の活躍、医療活動などを掲載した広報誌です。年4回(4月、6月、10月、1月)発行。在学生だけでなく、保護者の皆さま、地域の皆さまなど広くご覧いただいています。

(A4判40ページ)



大学要覧

福岡大学の概要が分かる学外向けの広報誌です。本学の教育研究活動等の基本情報を社会に対して公表。学生数や財務状況等各種データも分かりやすく紹介しています。

(A5判88ページ)

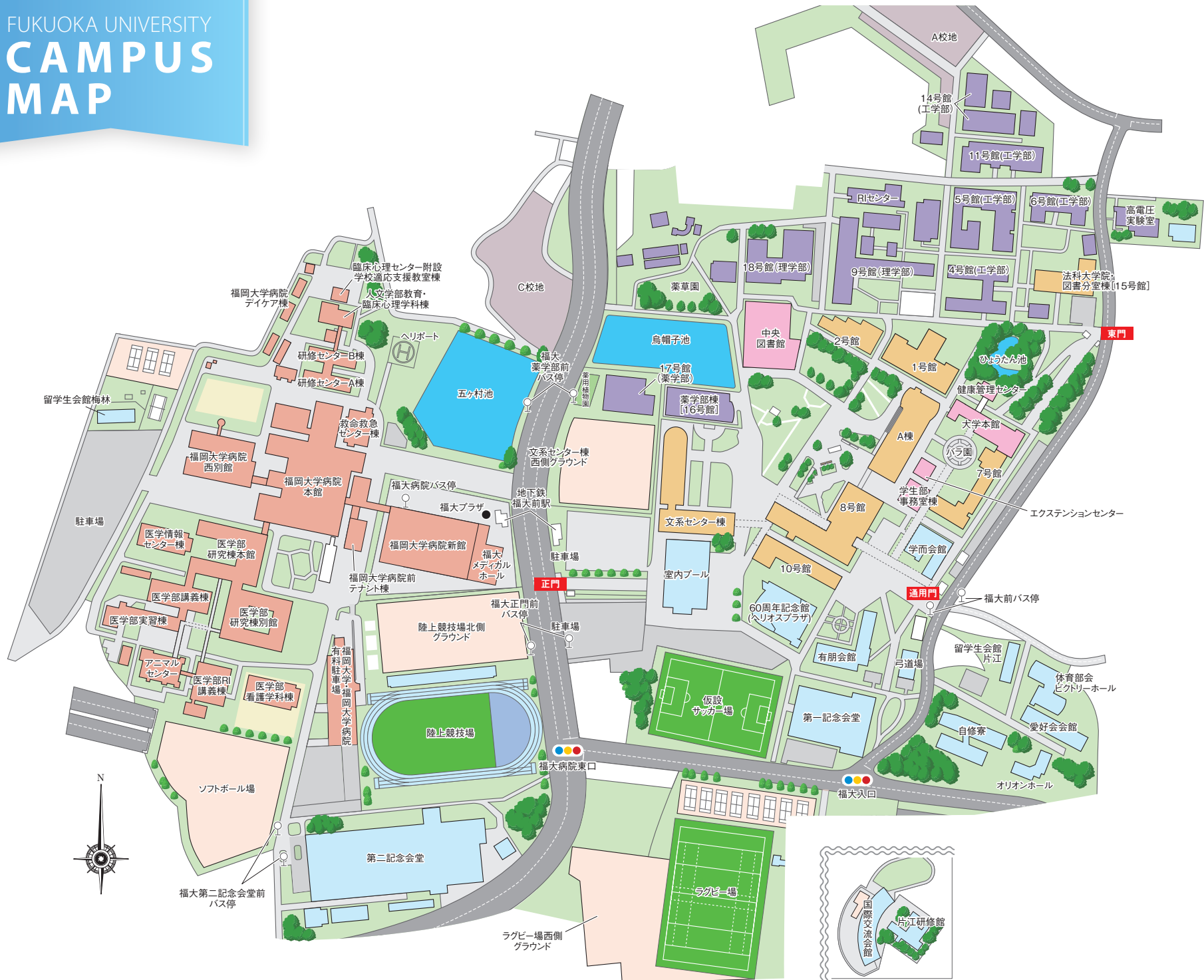


七限の杜

地域・社会に対して知の発信を行い、広く学術文化を伝えることを趣旨として年1回(1月)発行しています。内容はその時々話題やテーマを中心に構成。本学教授陣はもとより、在学生、卒業生、職員の他、地域の方からも寄稿いただいています。

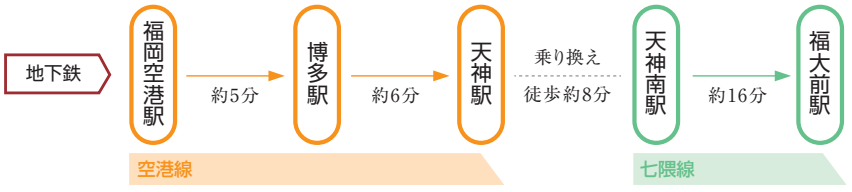
(A5判約130ページ)

FUKUOKA UNIVERSITY
**CAMPUS
 MAP**



福岡大学アクセスマップ

乗り換え：地下鉄天神駅から地下鉄天神南駅まで天神地下街を徒歩約8分



- バス**
- 博多駅前A → 西鉄バス 行先番号 16 → 福大前 約40分
 - 天神協和ビル前 → 西鉄バス 行先番号 12 → 福大前 約30分
- タクシー等**
- 福岡空港(都市高速利用) → 福岡大学 約30分
 - 博多駅 → 福岡大学 約40分
 - 天神 → 福岡大学 約30分

その他のアクセス方法は「福岡大学交通アクセス」でご確認ください。 <http://www.fukuoka-u.ac.jp/help/map/>

- 福岡大学**
 (人文・法・経済・商・商二部・理・工・薬・スポーツ科学部)
 〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1
 TEL 092-871-6631(代)
- 福岡大学病院**
 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
 TEL 092-801-1011(代)
- 福岡大学筑紫病院**
 〒818-8502 筑紫野市谷明院1-1-1
 TEL 092-921-1011(代)
- 附属大濠中学校**
 〒810-0044 福岡市中央区六本松1-12-1
 TEL 092-712-5828(代)
- 附属大濠高等学校**
 〒810-0044 福岡市中央区六本松1-12-1
 TEL 092-771-0731(代)
- 附属若葉高等学校**
 〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-4-62
 TEL 092-771-1981(代)
- 福岡大学東京事務所**
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-14
 郵政福祉虎ノ門第一ビル4階
 TEL 03-3501-6629
- 福岡大学ハルビン事務所**
 中国ハルビン市経済開発区紅旗大街242号
 福思特ビル12階1204号室
 TEL +86-451-55544310



本学は、公益財団法人大学基準協会が行った2008年度の大学評価ならびに認証評価で、大学基準に適合しているとの認定を受けました。